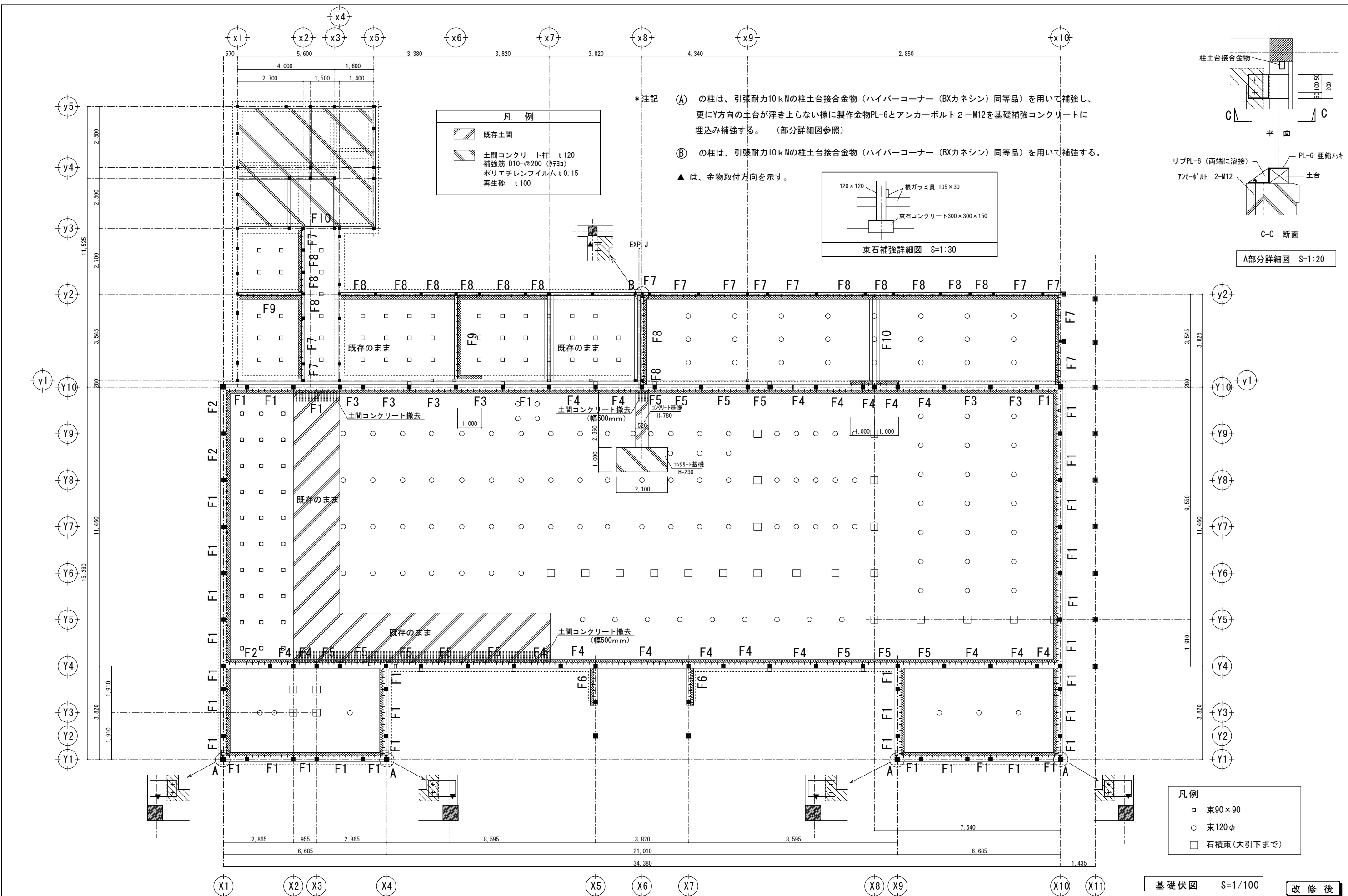


令和5年度  
津和野庁舎耐震補強・改修 設計図

TITLE	SCALE
【改修前】 基礎伏図	1/100
基礎断面図	1/30

設計年月日	設計	担当
2024・01		

S - 0 1



TITLE	【改修後】	SCALE
基礎伏図		1/100
基礎断面図		1/20

設計年月日	設計	担当	S - 02
2024・01			

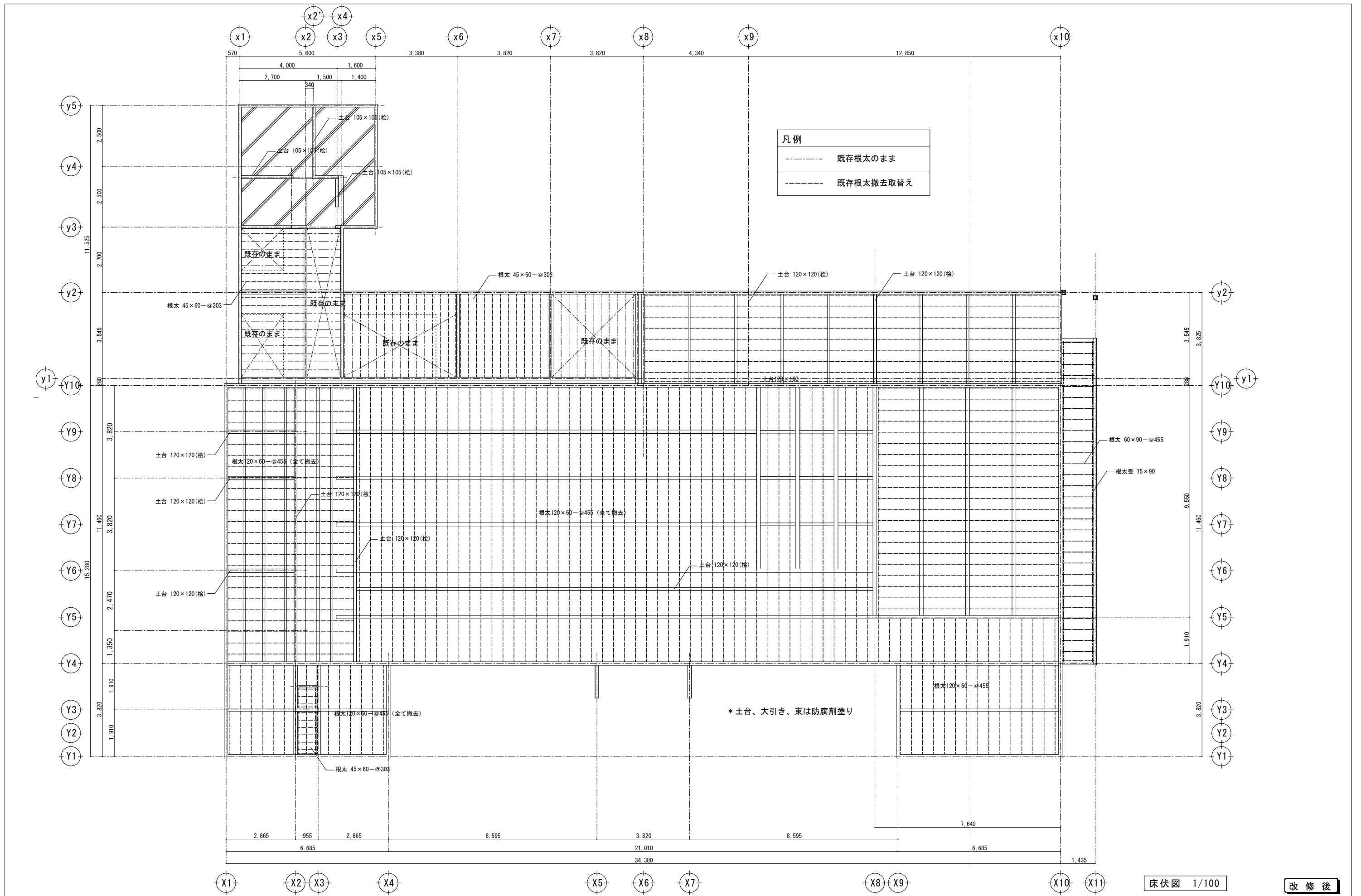
基礎符号	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面						
補強部 B×D	140 × 700	140 × 700	140 × 700	140 × 700	140 × 700	140 × 700
上端主筋	2-D13	1本目 1-D13 + 2本目 1-D16	1本目 1-D13 + 2本目 1-D19	2-D19	1本目 1-D19 + 2本目 1-D22	1-D13
下端主筋	2-D13	1本目 1-D13 + 2本目 1-D16	1本目 1-D13 + 2本目 1-D19	2-D19	1本目 1-D19 + 2本目 1-D22	1-D13
あばら筋	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)
腹筋	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10
あと施工アンカー	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 上部穿孔深さ185mm、下部穿孔深さ100mm フック埋め込み深さ87mm
基礎符号	F 7	F 8	F 9	F 10 【新設基礎】	共通事項	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	共通事項	
断面						
補強部 B×D	135 × 580	135 × 580	135 × 580	135 × 730		
上端主筋	1-D13	2-D13	1本目 1-D13 + 2本目 1-D16	1-D13		
下端主筋	1-D13	2-D13	1本目 1-D13 + 2本目 1-D16	1-D13		
あばら筋	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250 (端部:フック付又はス*ット溶接)	D10@250		
腹筋	1-D10	1-D10	1-D10	2-D10		
あと施工アンカー	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	接着系アンカー、D13@250 (上下2箇所) 穿孔深さ100mm、アンカー埋め込み深さ87mm	ベース筋 D10@250		

・あと施工アンカーは、接着系アンカーを使用し、HPアンカー（ARケミカルセッター）同等品とする。  
 施工はメーカーの施工要領書による。  
 使用ボルトは、異形鉄筋D13とする。  
 穿孔径16mm、穿孔長100mmとする。  
 D13 1本あたりの必要長期許容せん断強度 17.35kN、必要短期許容せん断強度 26.07kN  
 アンカーにはせん断のみ負担させる。



床伏図 1/100

改修前

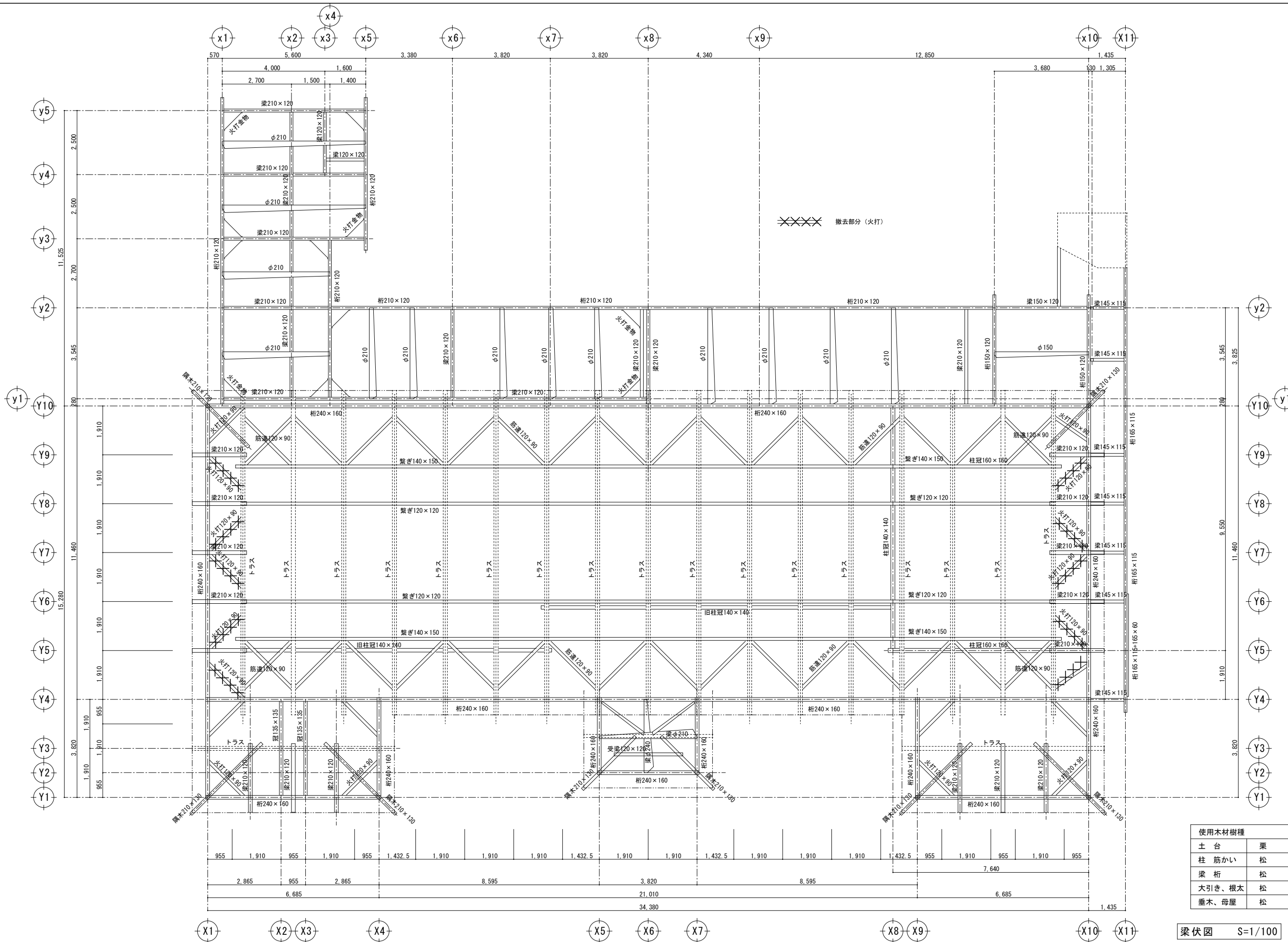


床伏図 1/100

改修後

TITLE	【改修後】	SCALE
	床伏図	1/100

設計年月日	設計	担当
2024・01		

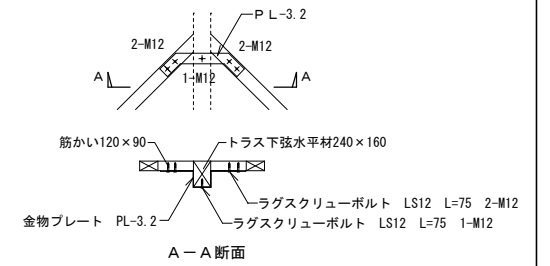
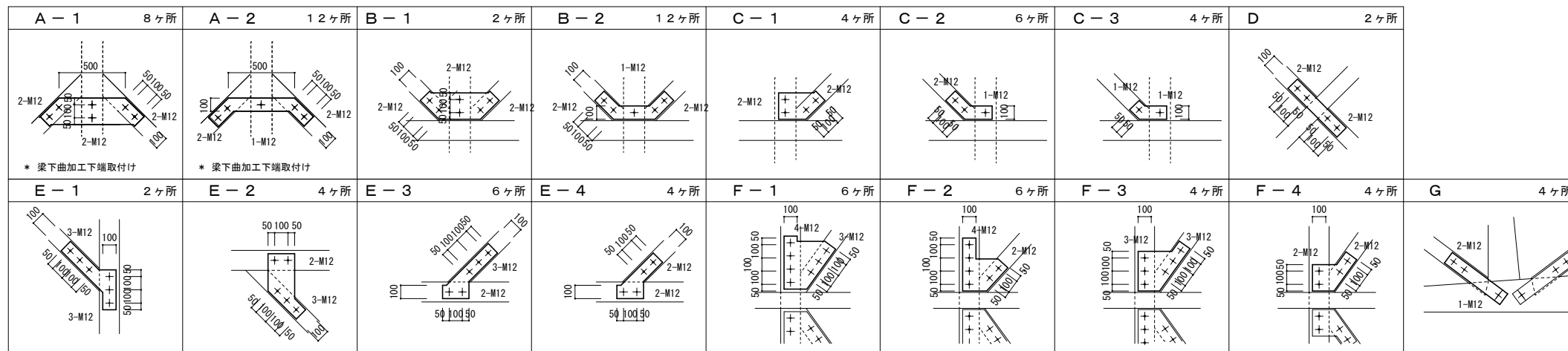


使用木材樹種	
土台	桧
柱筋かい	松
梁桁	松
大引き・根太	松
垂木・母屋	松

梁伏図 S=1/100 改修前

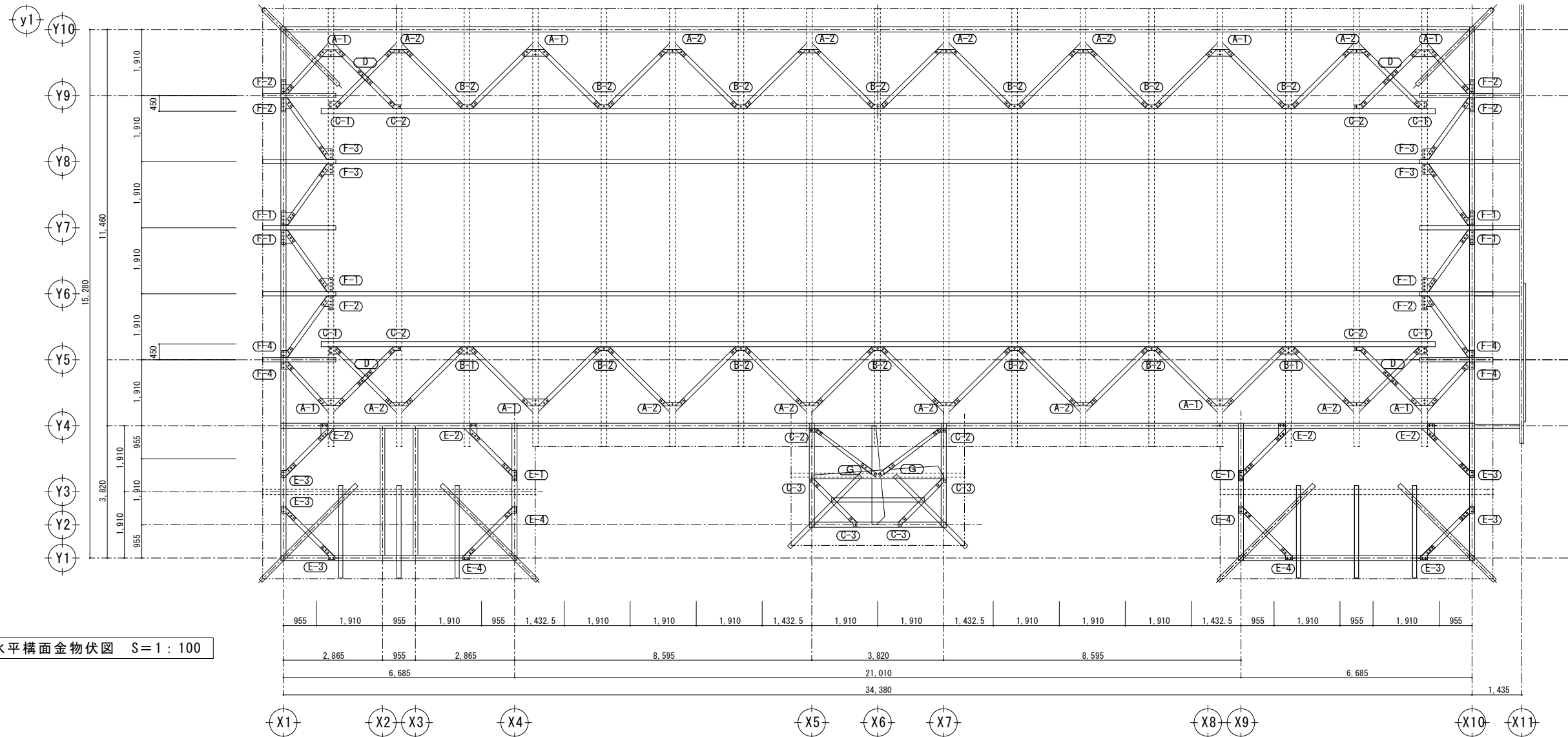


金物詳細図 S=1:30



トラス下弦水平材両端部詳細 S=1:50

(A-1・A-2 のみ)



水平構面金物伏図 S=1:100

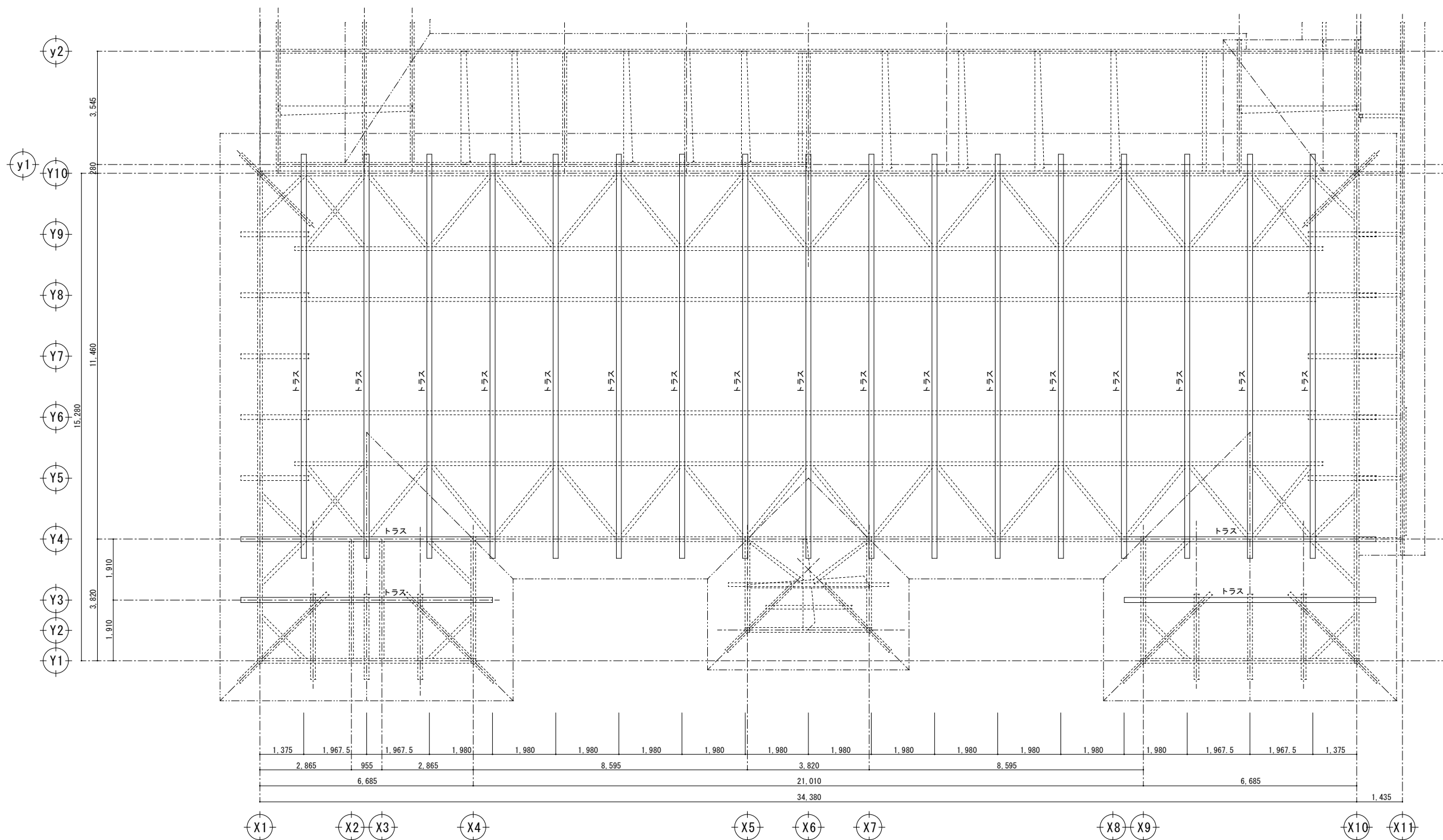
(注記)

- ① ラグスクリーボルト LS12 (M12) L=75 (タナカ AX807500同等品)  
 材質 JIS B 1051 (強度区分4.6または4.8を満足する炭素鋼)  
 表面処理 JIS H 8610 (電気亜鉛めっき) 及び JIS H 8625 Ep-Fe/Zn 8/CM2 C
- ② 金物プレート  
 材質・厚さ SS400 PL-3.2 亜鉛メッキ処理

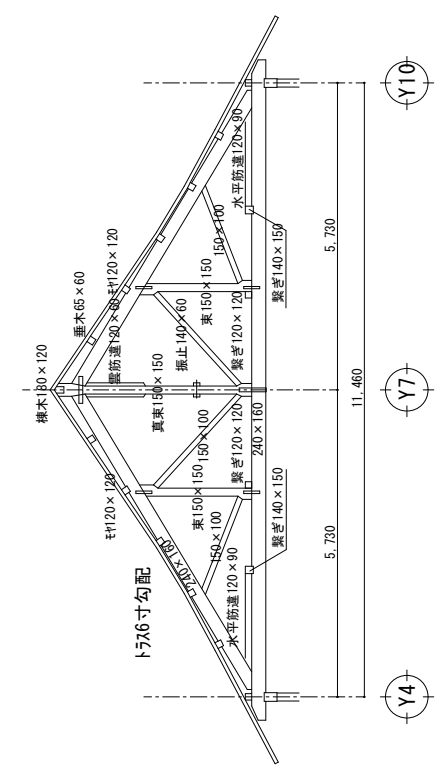
- ③ 金物プレートは、ヘリ空き50、ボルト間隔100を基準とする。
- ④ 金物プレートは梁・筋かいの天端でラグスクリーボルトで取り付ける。ただし、トラス下弦水平材の両端部の筋かいに取り付ける場合は、金物プレートを梁寸法に合わせて曲げ加工して、梁・筋かいの下端に取り付ける。

(トラス下弦水平材両端部詳細 参照)

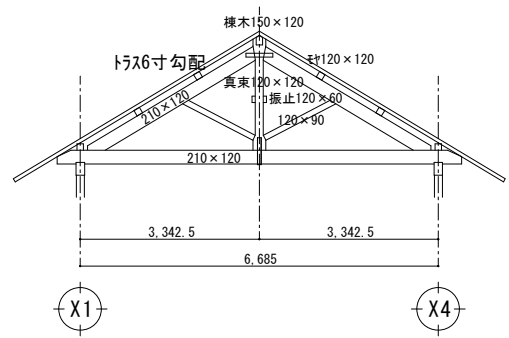




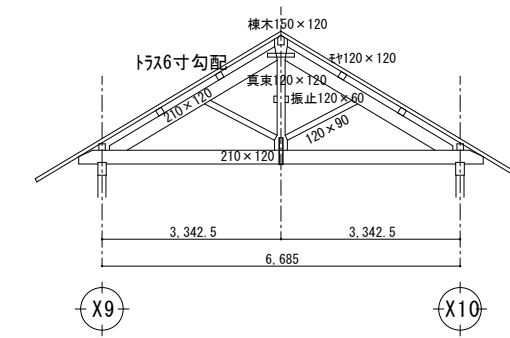
トラス伏図 S=1/100



トラス軸組図 S=1/100



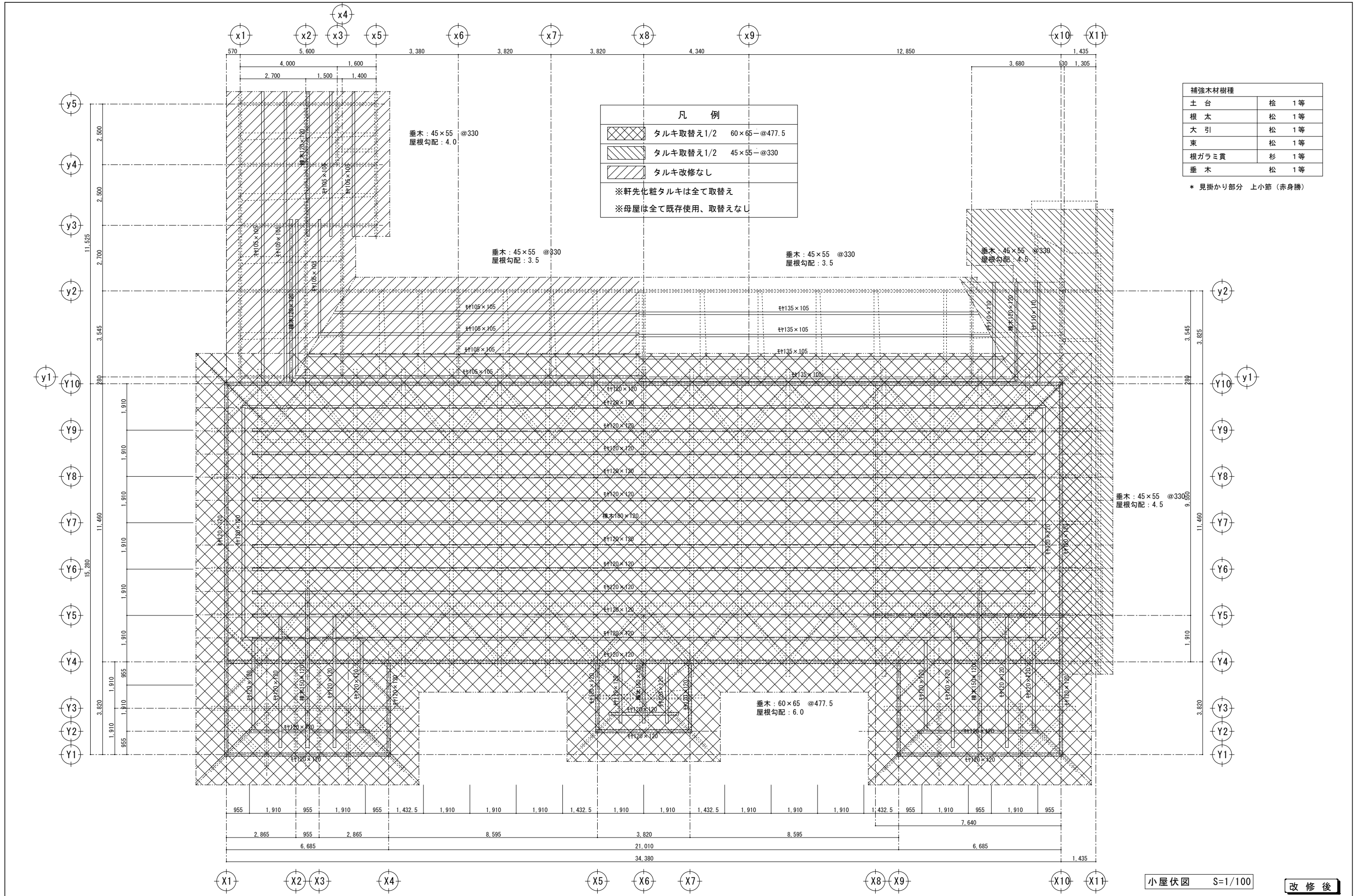
トラス軸組図 S=1/100



トラス軸組図 S=1/100

使用木材樹種	
土台	栗
柱筋かい	松
梁桁	松
大引き、根木	松
垂木、母屋	松

改修前



補強木材樹種	
土台	桧 1等
根太	松 1等
大引	松 1等
束	松 1等
根ガラミ貫	杉 1等
垂木	松 1等

\* 見掛かり部分 上小節 (赤身勝)

凡例	
	タルキ取替え1/2 60×65 @477.5
	タルキ取替え1/2 45×55 @330
	タルキ改修なし

※軒先化粧タルキは全て取替え  
 ※母屋は全て既存使用、取替えなし

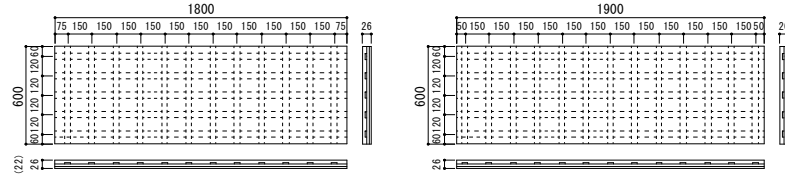
小屋伏図 S=1/100

改修後

# 荒壁パネル工法 標準仕様書

1. 名称 荒壁パネル 特許取得製品 特許番号第4127781号 製造者：株式会社丸浩工業

2. 材料 2.1 規格 ■：本工事で使用するパネル  
 ■ 標準パネル 1800×600×26 ■ 標準メーター 1900×600×26  
 □ 薄手パネル 1800×600×22 (壁倍率取得なし、限界耐力計算を行う場合のみ使用可能)



◇1800タイプ [26/22]  
 【パネル単体重量】 26mm：17.5kg/枚 【パネル単体重量】 22mm：15.0kg/枚  
 【パネル単体重量】 26mm：18.5kg/枚

- 2.2 組成材料
- ① 京都産深草土 (ふかくさつち)
  - ② 土混和材 [セメント系固着材]
  - ③ 新聞紙 [未配達残紙・古紙]
  - ④ 木小舞 [スギ間伐材]

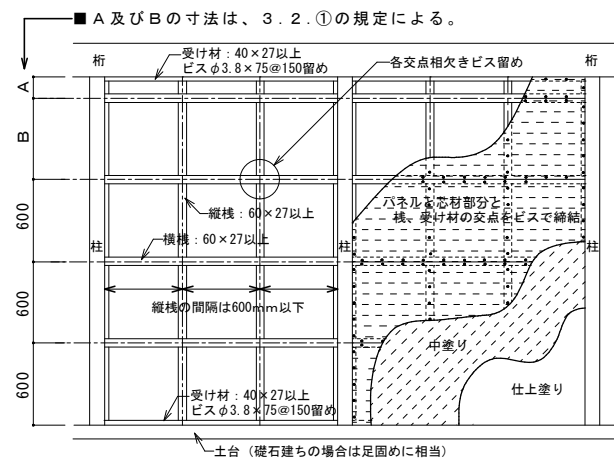
2.3 材料と基本物性と取得認定

性能項目	物性・性能数値	試験規格・試験方法 (試験条件、測定条件等)	試験機関※1
壁倍率(両面張り)	貫仕様 1.2 (2.4) 受材仕様 1.3 (2.6)	(財)日本建築総合試験所 木造耐力壁倍率性能試験・評価業務方法書	[1, 2, 3]
不燃性	難燃材料	(財)日本建築総合試験所 防火耐火性能試験・評価業務方法書	[1]
耐火性	30分防火構造	(財)日本建築総合試験所 防火耐火性能試験・評価業務方法書	[1]
密度	0.65g/cm <sup>3</sup> 0.55g/cm <sup>3</sup>	気乾状態 (含水率10%換算値) 絶乾状態	[1]
圧縮強さ	1.65N/mm <sup>2</sup>	JIS A 1216 一軸圧縮試験 (含水率10%、ε=15%時の圧縮強度)	[1]
圧縮ヤング率	0.14kN/mm <sup>2</sup>	JIS A 1216 一軸圧縮試験 (含水率10%、比例限度応力時)	[1]
単位面積あたりの曲げ破壊荷重	530N/mm <sup>2</sup>	JIS A 1408 単純曲げ試験 (26mm パネル 3 体平均値)	[2]
熱伝導率	0.14W/mK	迅速熱伝導計による測定	[4]
仕上材の付着強さ	58.8N/m <sup>2</sup>	建研式引張試験	[4]
耐水性	異常無し	1年間水中浸漬	[4]
調湿性	1.0%/m <sup>2</sup>	吸放湿繰り返し試験 (気乾状態からの連続吸湿量)	[4]
ホルムアルデヒド放出量	0mg/?	JIS A 1901 小型チャンバー法	[2]

※1 試験機関 [1] 日本建築総合試験所、[2] 金沢工業大学、[3] 京都大学防災研究所、[4] その他

## 3. 施工仕様

### 3.1 標準仕様

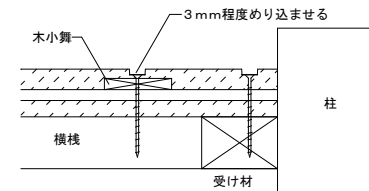


◇パネルは、必ず木小舞部分を留めつける。

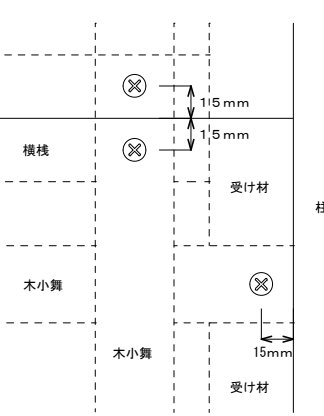
接合箇所	接合具	接合間隔
受材材	コーススレッド75 φ3.8×75mm (半ネジ/ラッパ) 鉄板 (表面防錆処理)	φ150
受材材交点	コーススレッド25 φ3.8×25mm (全ネジ/ラッパ) 鉄板 (表面防錆処理)	各所
荒壁パネル	コーススレッド45 φ3.8×45mm (全ネジ/ラッパ) ステンレス (SUS410鋼)	木小舞の配置間隔 長手：φ150 短手：φ120

※上記接合具と同等以上の耐力を有する接合具を使用

◇パネルを留めるビスは、木小舞の表面まで3mm程度めり込ませる



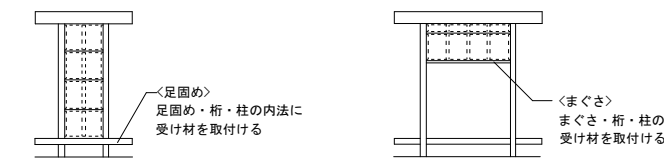
◇パネルとビスの端あきは15mm



◇受材材の断面寸法とねじの仕様

受材材は40×27以上、ビスはφ3.8×75@150留めとし、受材材を留めるビスの長さは、受材材の厚み×1.8以上とする。

◇礎石立ち、小壁等の施工法



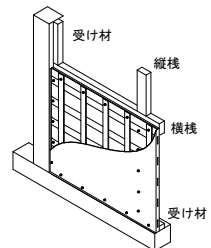
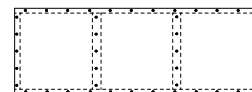
### 3.2 パネル取付とビス留めの規定

①パネルの割付で、Aの部分のような半端な部分の幅が150mm以下となる場合は、下図のA、B部分で寸法調整を行う。

階の内法高さ	調整区間の寸法	
	A. 最上段	B. 最上段直下
60cm×n段 + 1cm	241cm	1cm分木材で埋め 60cm
60cm×n段 + 2cm	242cm	2cm分木材で埋め 60cm
60cm×n段 + 3cm	243cm	3cm分木材で埋め 60cm
60cm×n段 + 4cm	244cm	15cm
60cm×n段 + 5cm	245cm	15cm
60cm×n段 + 6cm	246cm	15cm
60cm×n段 + 7cm	247cm	15cm
60cm×n段 + 8cm	248cm	15cm
60cm×n段 + 9cm	249cm	15cm
60cm×n段 + 10cm	250cm	15cm
60cm×n段 + 11cm	251cm	15cm
60cm×n段 + 12cm	252cm	15cm
60cm×n段 + 13cm	253cm	15cm
60cm×n段 + 14cm	254cm	15cm
60cm×n段 + 15cm	255cm	15cm
60cm×n段 + 16cm	256cm	16cm
60cm×n段 + 17cm	257cm	17cm
60cm×n段 + 18cm	258cm	18cm
60cm×n段 + 19cm	259cm	19cm
60cm×n段 + 20cm	260cm	20cm
60cm×n段 + 21cm	261cm	21cm
60cm×n段 + 22cm	262cm	22cm
60cm×n段 + 23cm	263cm	23cm
60cm×n段 + 24cm	264cm	24cm
60cm×n段 + 25cm	265cm	25cm
60cm×n段 + 26cm	266cm	26cm
60cm×n段 + 27cm	267cm	27cm
60cm×n段 + 28cm	268cm	28cm
60cm×n段 + 29cm	269cm	29cm
60cm×n段 + 30cm	270cm	30cm

※木材で埋める場合は3cmまでとし、木材のせいり分受材材のせいりを増やす

②受材材仕様のパネル取付は、「日」の字とする。



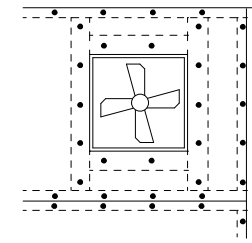
### 3.3 各部の収まりと施工法

#### ① 設備配線の収まり

a. 設備配線は、横桟に貫通穴 (φ12以内) を開け、挿入する。

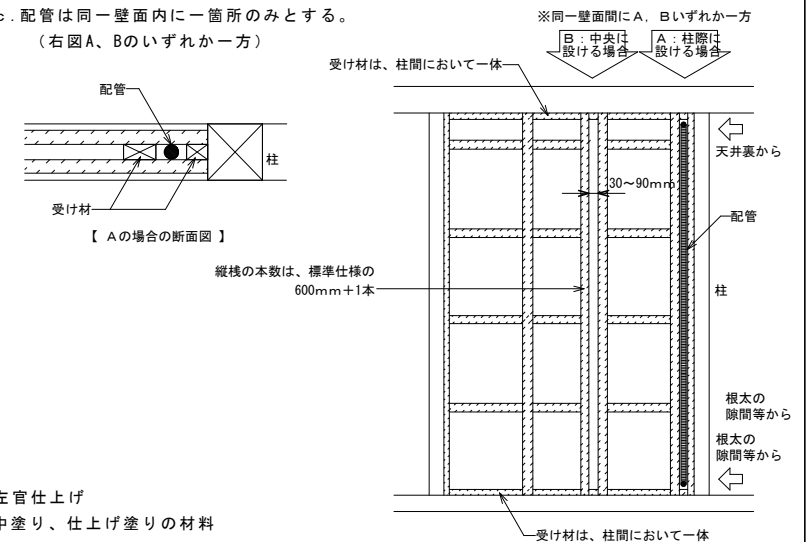
#### ② 設備器具の収まり

a. 換気扇など20cm角を超える設備機具を取り付け、パネルを切り欠く場合は、周囲に桟を回す。  
 b. コンセント等の埋め込みボックス (20cm以内) の場合は、特に補強は入れなくてよい。



#### ③ 止むを得ず真壁壁面内部に設備配管を設置する場合の収まり

a. 配管を設ける箇所に桟を通し、パネルをビスで四周留めつける。その際、桟と桟の間は30~60mm内とし、パネルは取り次がないようにする。  
 b. 配管は天井裏や根太の隙間等から行う。  
 c. 配管は同一壁面内に一箇所のみとする。  
 (右図A、Bのいずれか一方)



#### 3.4 左官仕上げ

##### ① 中塗り、仕上げ塗りの材料

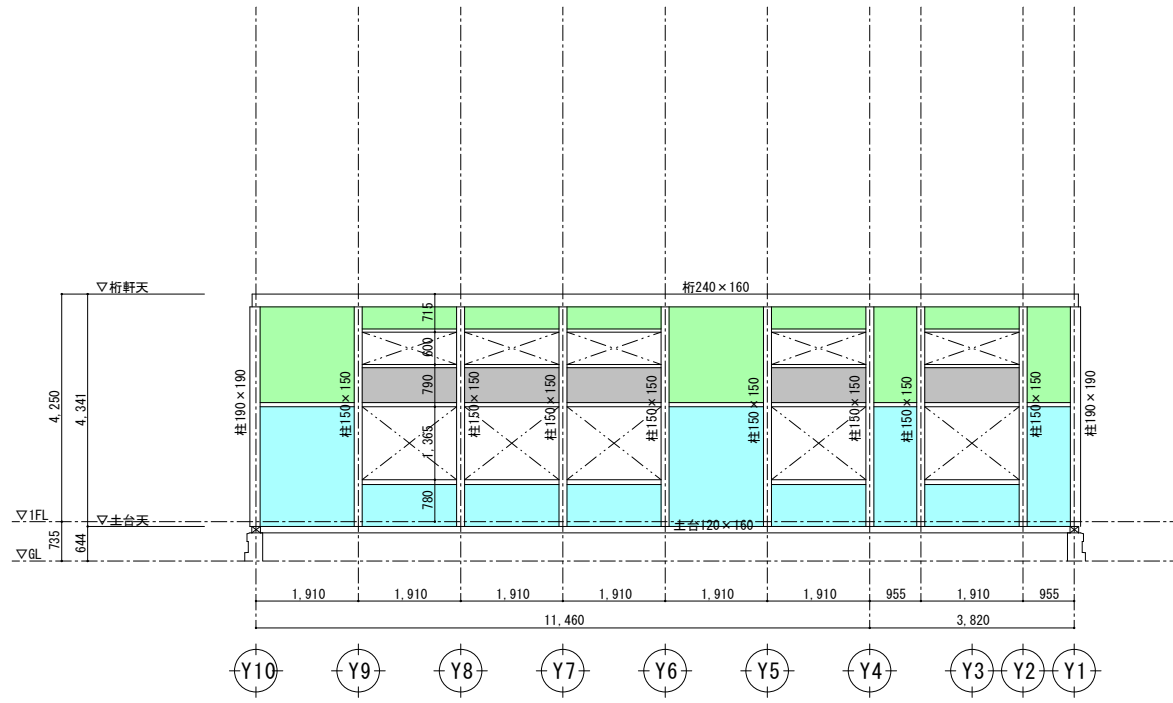
a. 中塗り【塗厚6~10mm】  
 土中塗り、石膏中塗り、砂漆喰中塗りが施工可能  
 b. 仕上げ塗り【塗厚1mm程度】  
 漆喰、土仕上げ、その他メーカー仕上げ材料  
 c. 副材料

- 寒冷紗：幅10cm以上、2~3mmメッシュ  
 ※PB平ボード用の粘着材付きのファイバーテープは使用しない。  
 ※PB平ボード用の粘着材付きのファイバーテープは使用しない。  
 ジョイント処理は、必ず中塗り材料で寒冷紗を伏せ込みする。

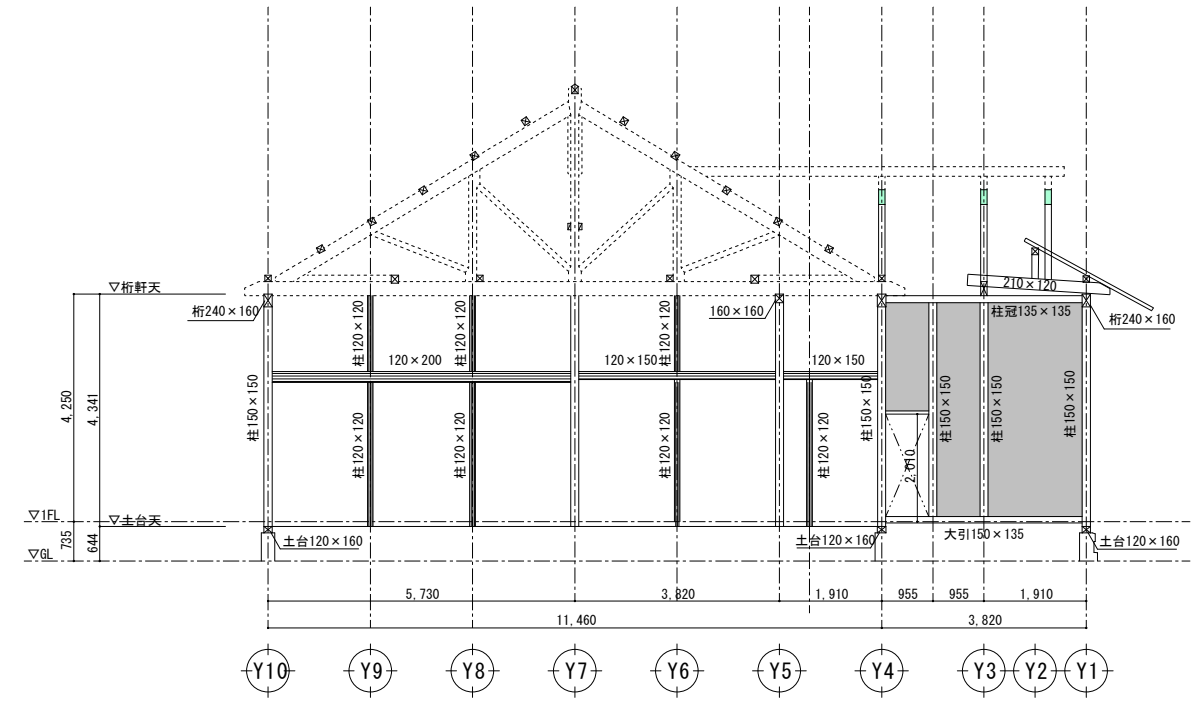
- シーラー：パネルの水引調整  
 ※シーラー処理を行う場合は、4~5倍希釈で使用
- 糊：中塗り材料の水持ち調整

##### ② 施工上の留意点

a. 荒壁パネルは、大変水引の強い材料であるため、水引調整に十分注意すること。  
 ■ パネルの水引加減を調整する  
 ※シーラー処理又は水打ち等、適当な下地処理を施しパネルの水引を加減する。  
 又、ジョイント処理~全面シコキ塗り一度乾燥させ、後日中塗りを仕上げる事でパネルの水引を調整する事も可能。  
 ■ 中塗り材料の水持ちを調整する  
 ※特に石膏中塗りの場合は、材料の水持ちが悪いので、必要に応じ中塗り材料に糊を差すこと。

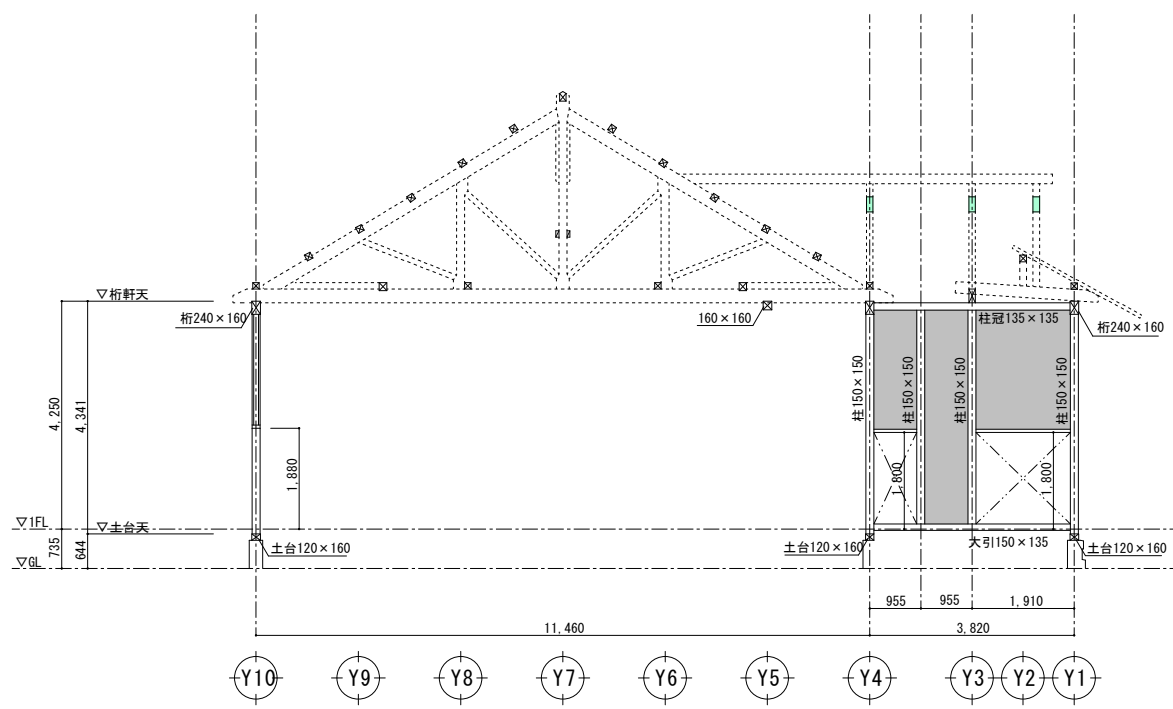


【改修前】  
X1 通り軸組図 S=1/100

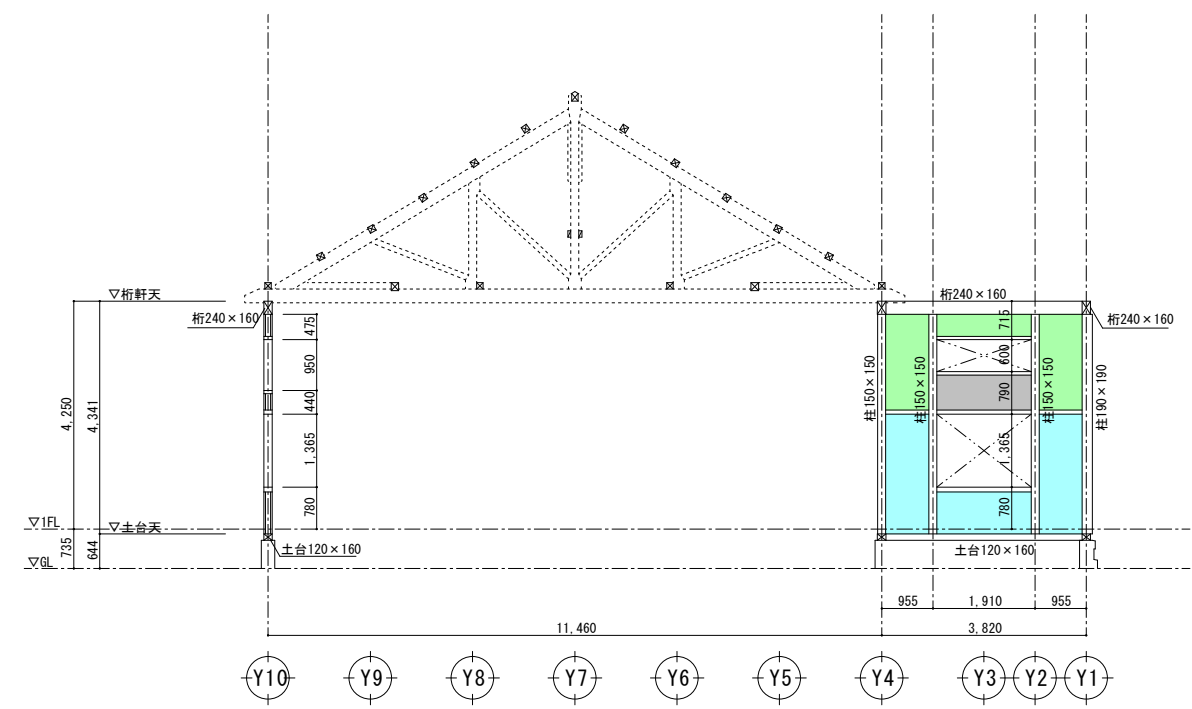


【改修前】  
X2 通り軸組図 S=1/100

凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分)：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱・梁撤去部分

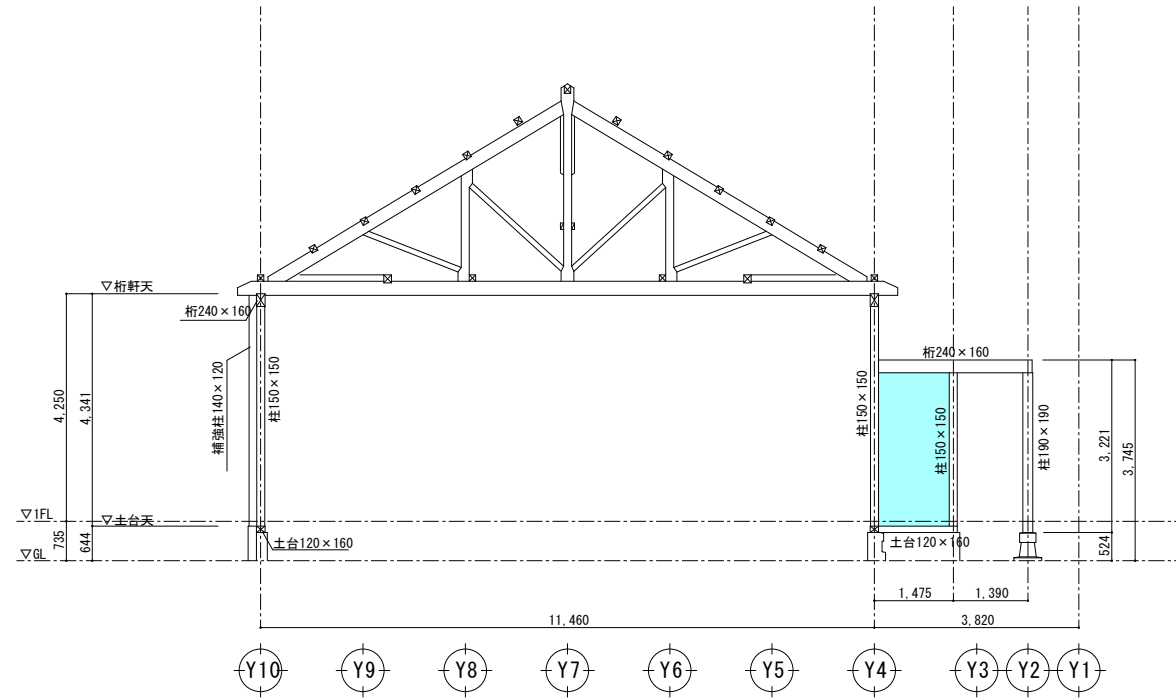


【改修前】  
X3 通り軸組図 S=1/100

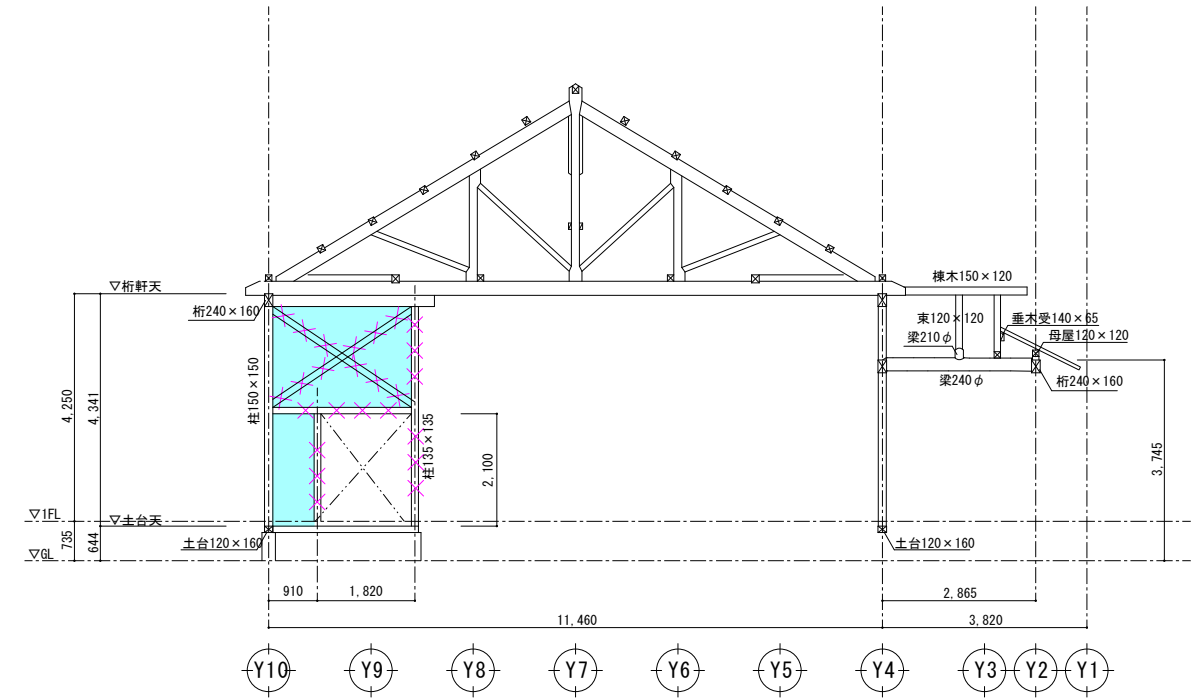


【改修前】  
X4 通り軸組図 S=1/100

改修前

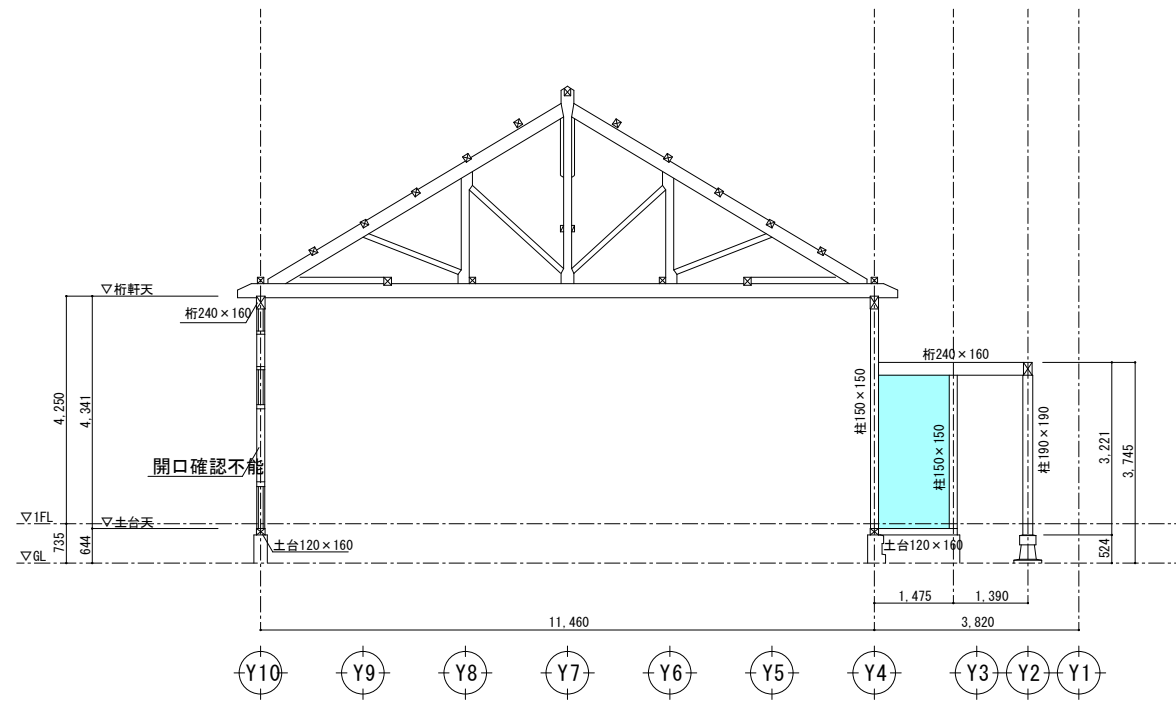


【改修前】  
X5 通り軸組図 S=1/100

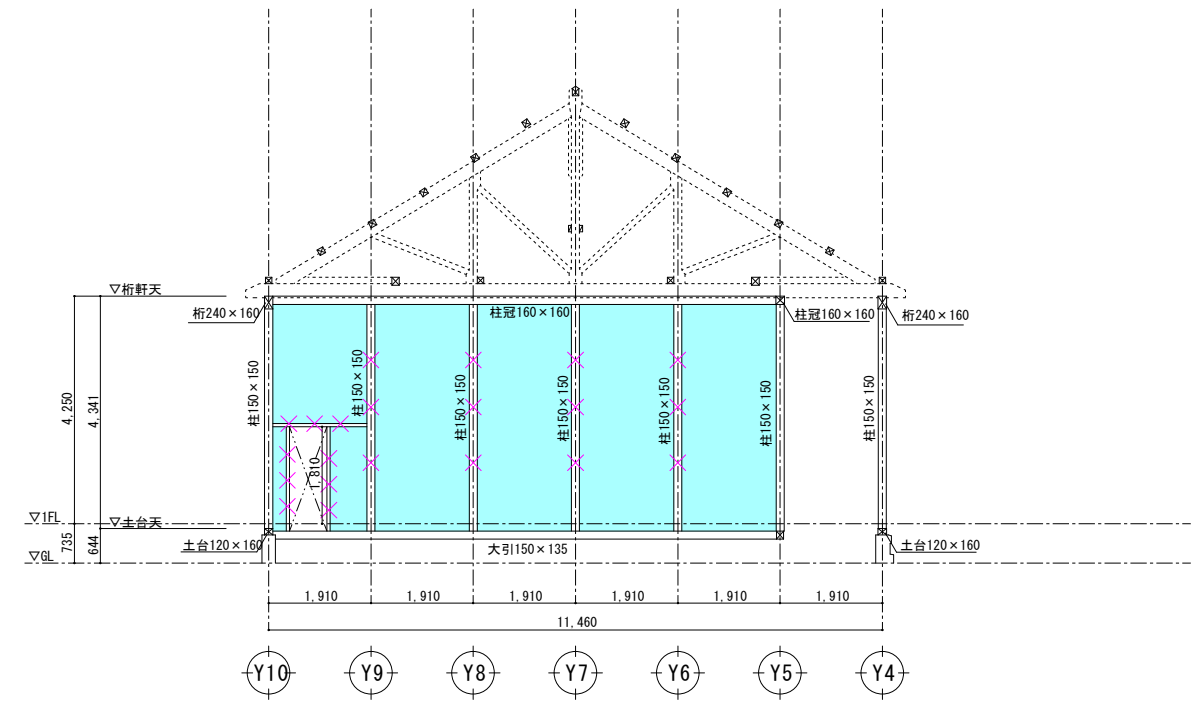


【改修前】  
X6 通り軸組図 S=1/100

凡 例 (解体部分)	
■	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
■	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分)：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
■	全面撤去壁部分
×××	柱 梁撤去部分



【改修前】  
X7 通り軸組図 S=1/100

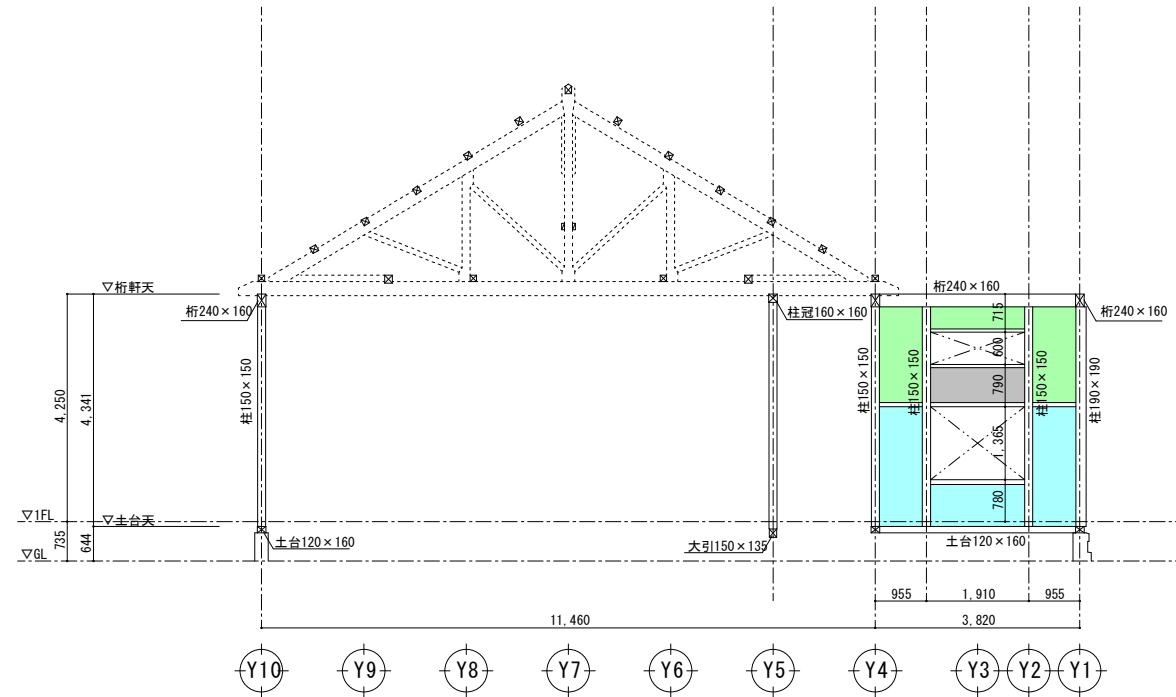


【改修前】  
X8 通り軸組図 S=1/100

改 修 前

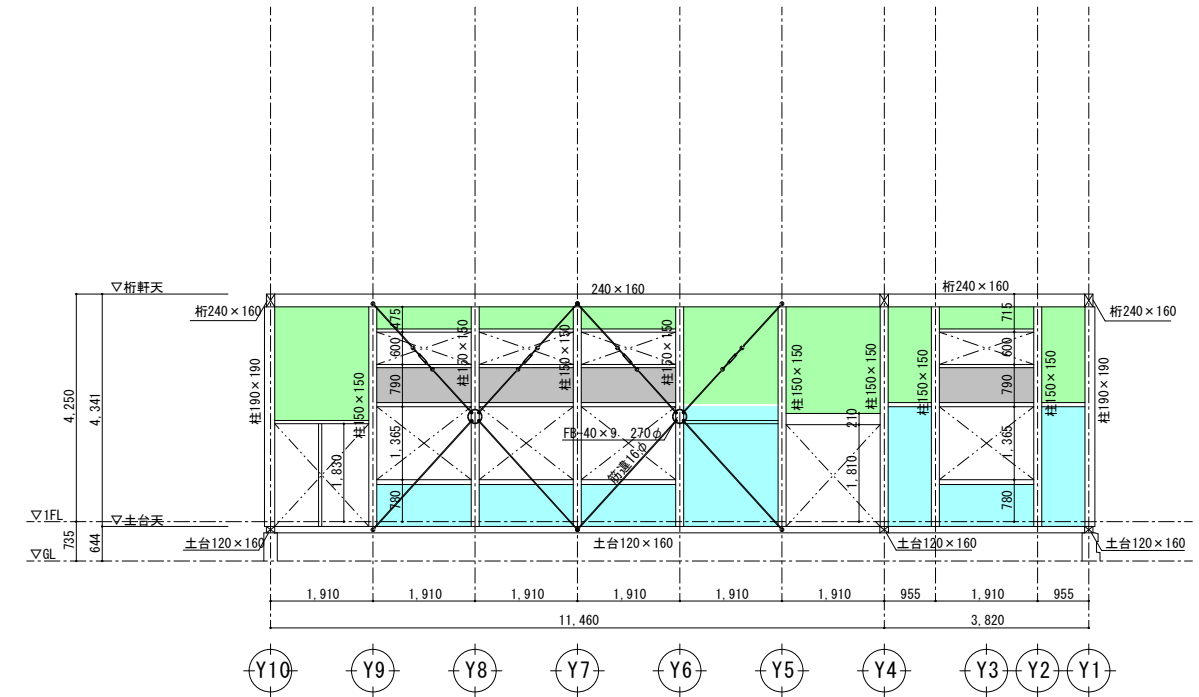
TITLE	【改修前】	SCALE	
	軸組図・2	1/100	

設計年月日	設 計	担 当	S — 13
2024・01			



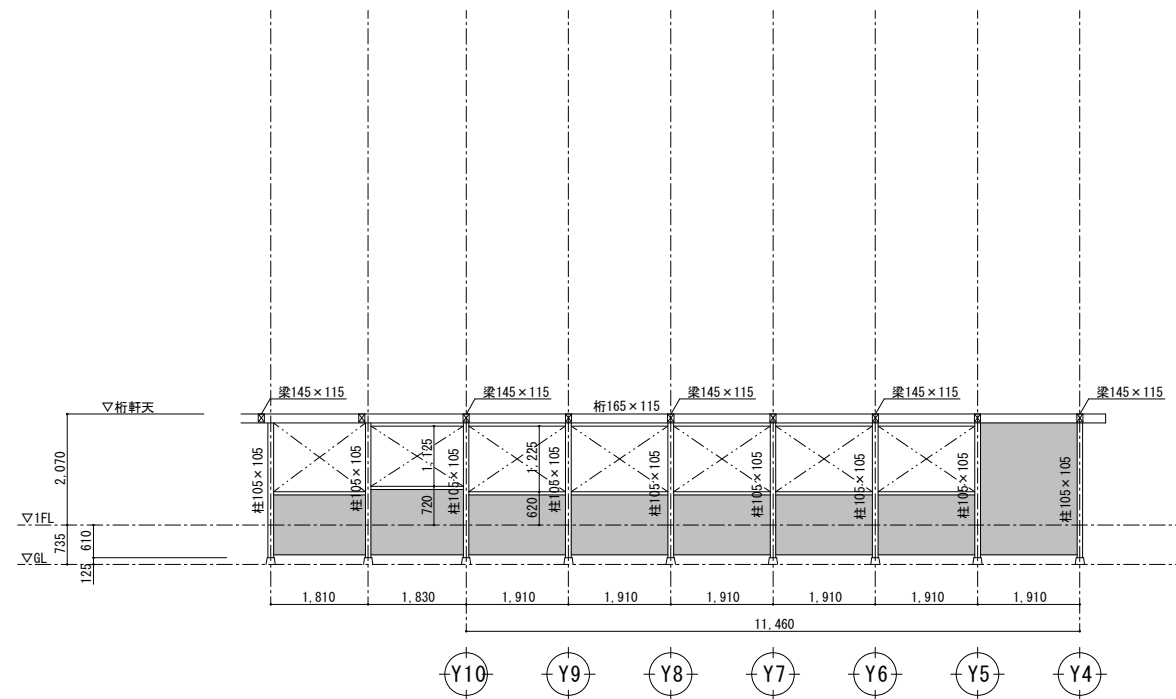
【改修前】

X9 通り軸組図 S=1/100



【改修前】

X10 通り軸組図 S=1/100

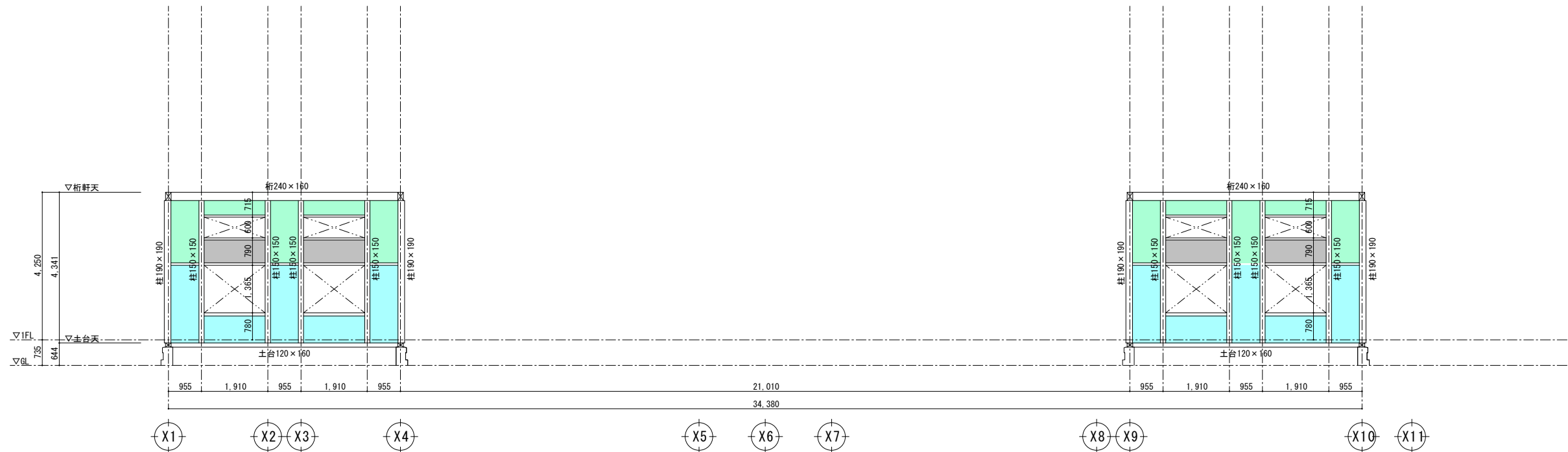


【改修前】

X11 通り軸組図 S=1/100

凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁（改修なし、既存のまま）
	壁撤去部分（一部） 部分撤去（壁部分）：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱・梁撤去部分

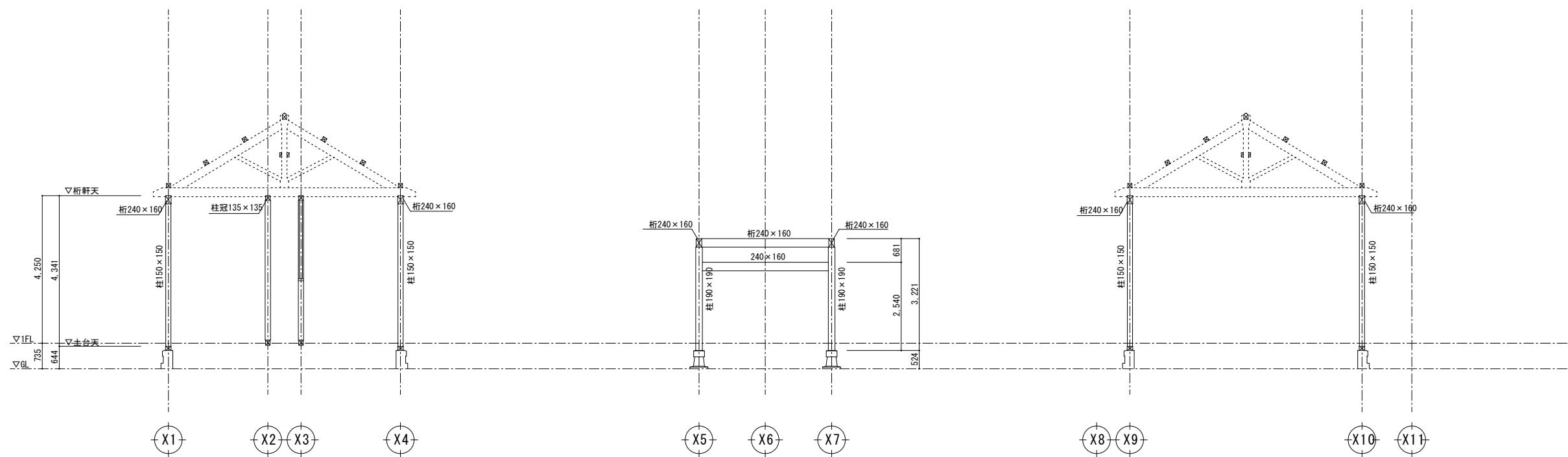
改修前



【改修前】

Y1 通り軸組図 S=1/100

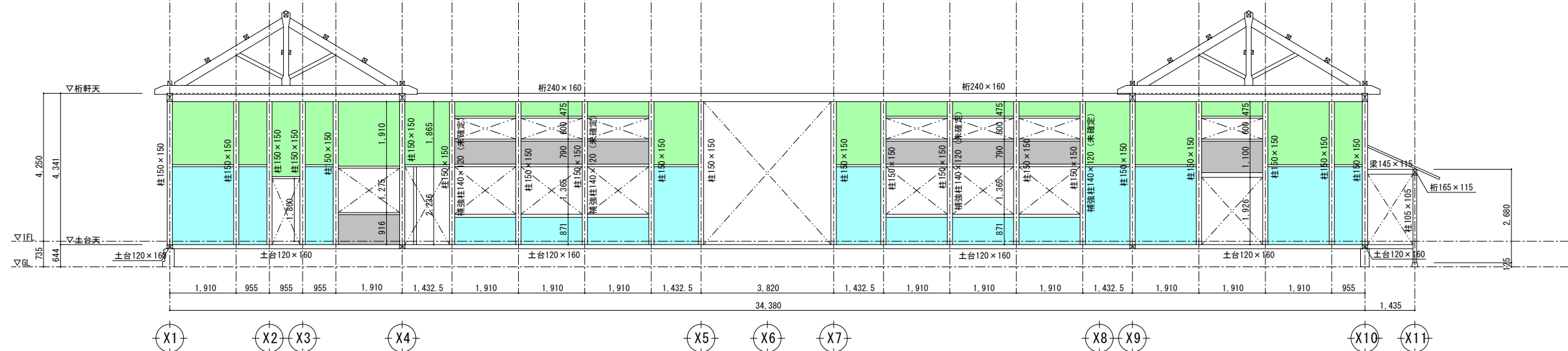
凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁（改修なし、既存のまま）
	壁撤去部分（一部） 部分撤去（壁部分）：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱・梁撤去部分



【改修前】

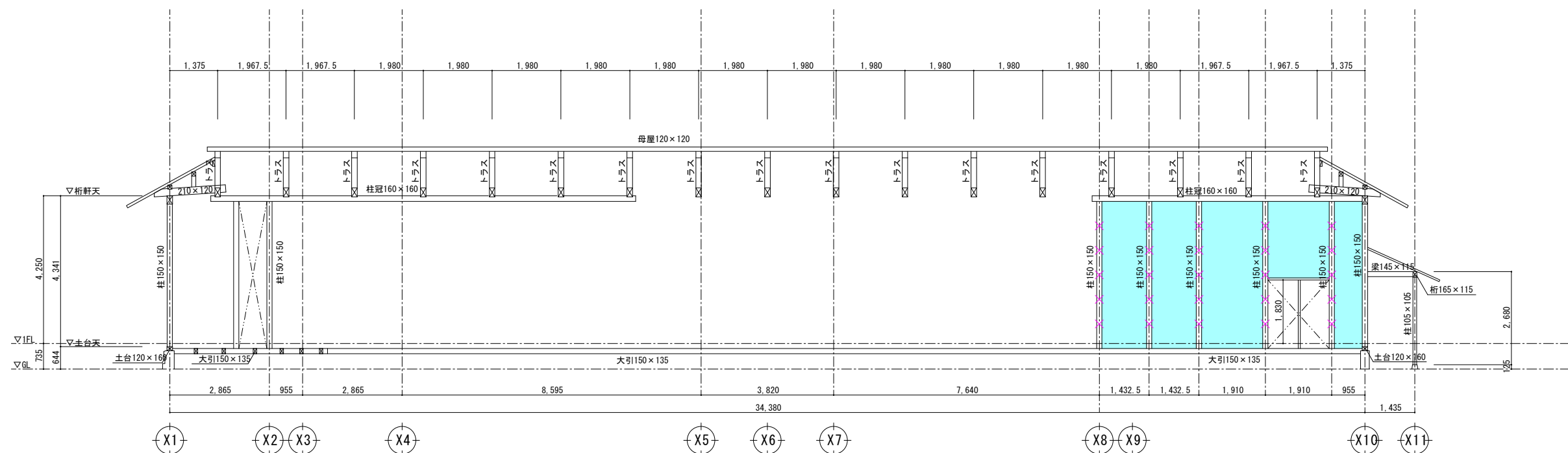
Y2 通り軸組図 S=1/100

改修前



【改修前】  
Y4 通り軸組図 S=1/100

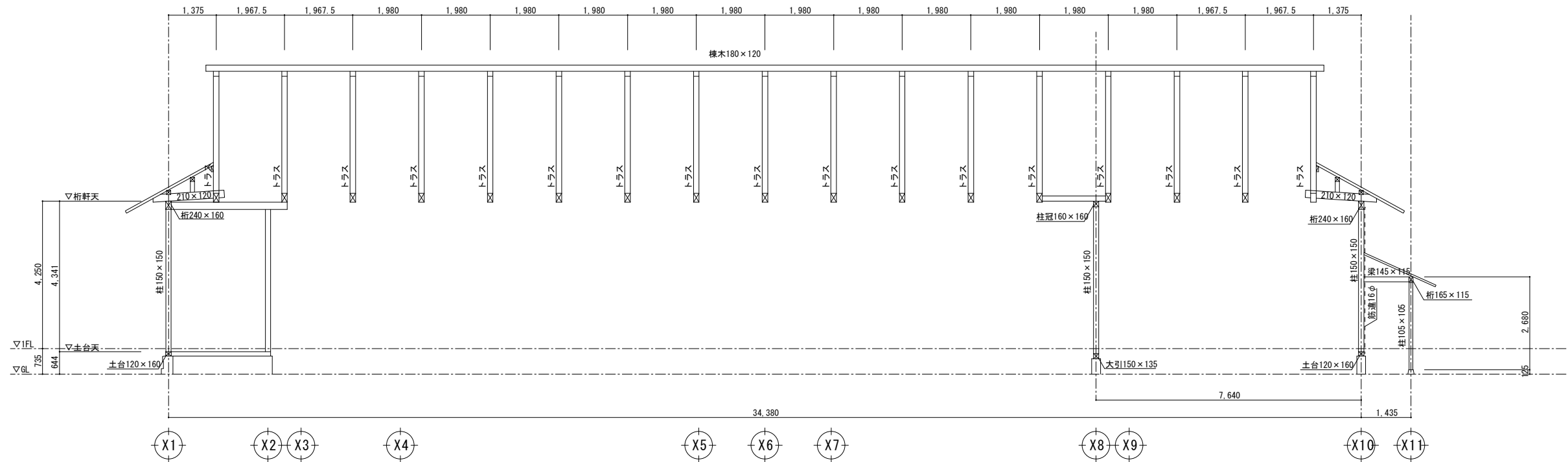
凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分)：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱梁撤去部分



【改修前】  
Y5 通り軸組図 S=1/100

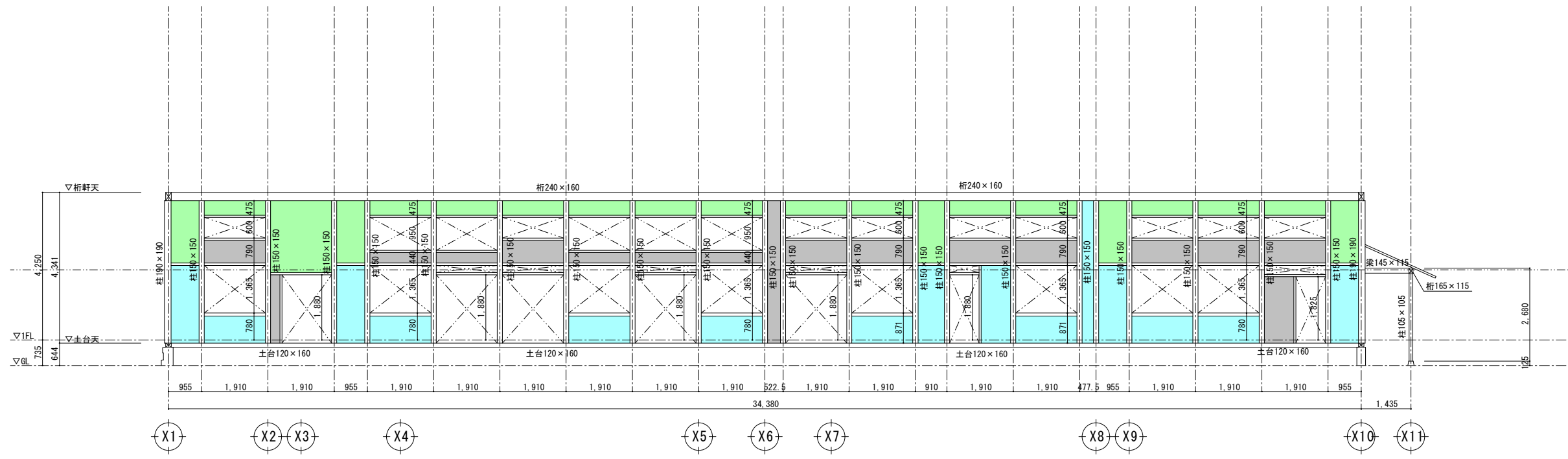
改修前





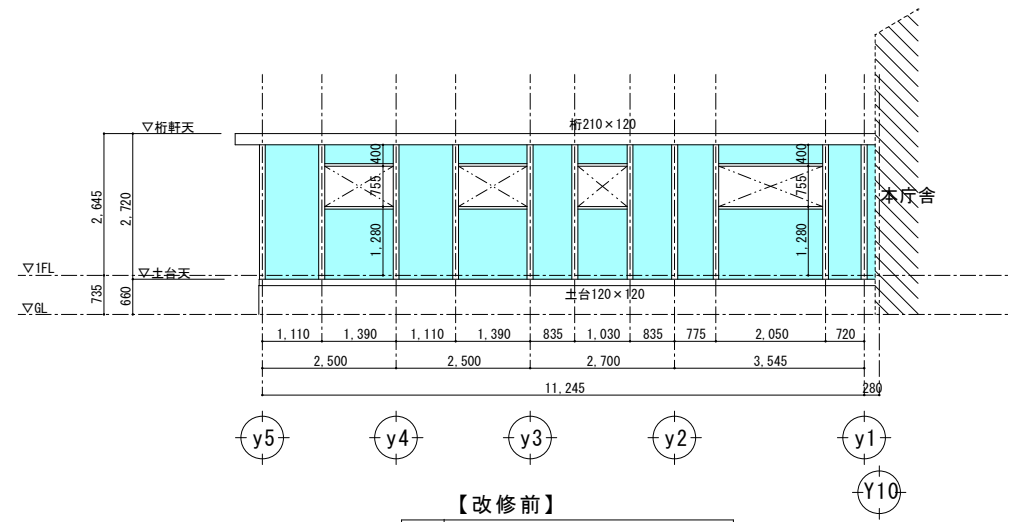
【改修前】  
 (Y7) 通り軸組図 S=1/100

凡 例 (解体部分)	
■	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
■	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分) : 1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
■	全面撤去壁部分
XXX	柱 梁撤去部分

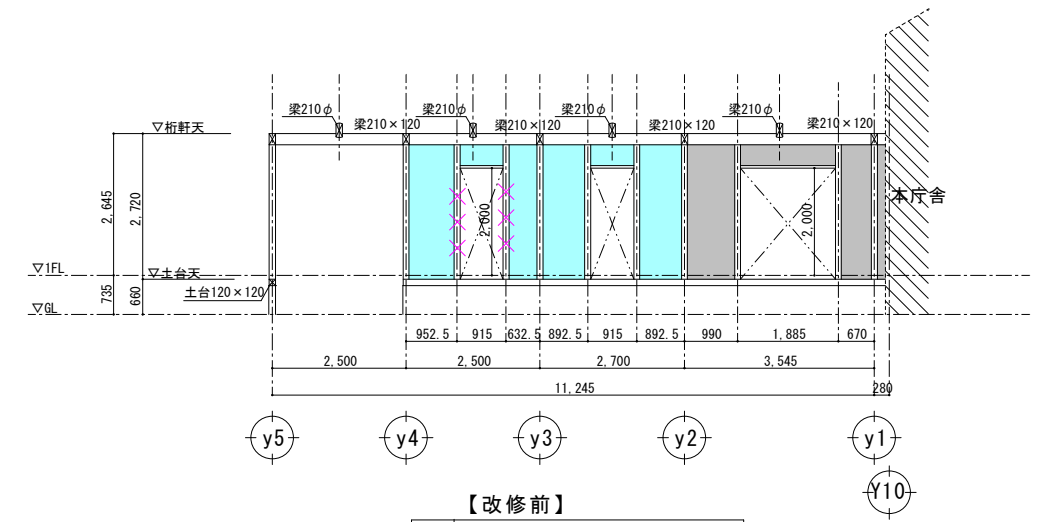


【改修前】  
 (Y10) 通り軸組図 S=1/100

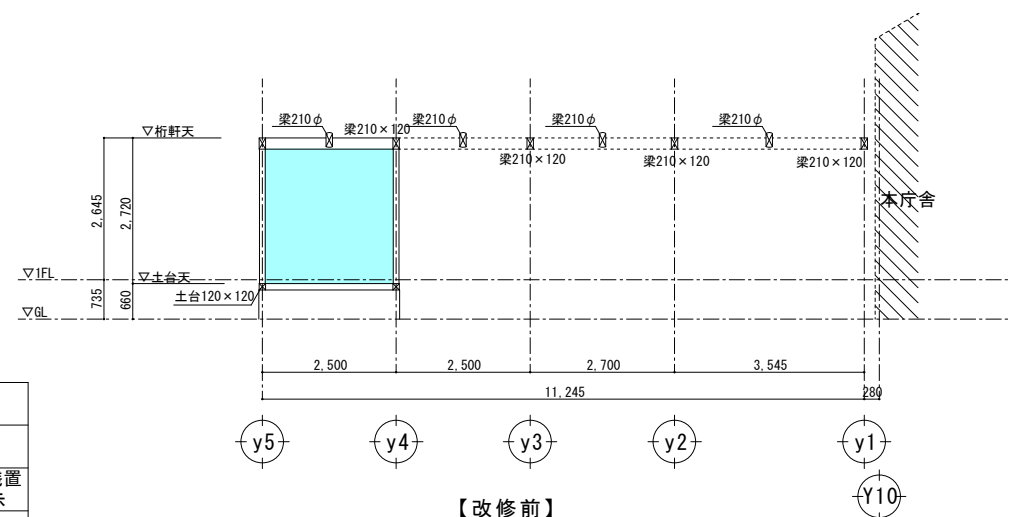
改修前



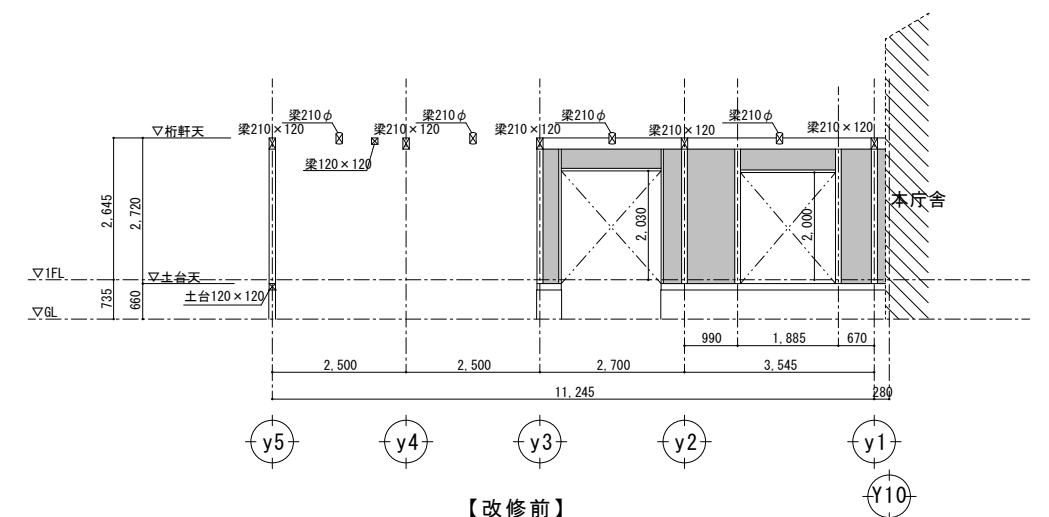
【改修前】  
x1 通り軸組図 S=1/100



【改修前】  
x2 通り軸組図 S=1/100

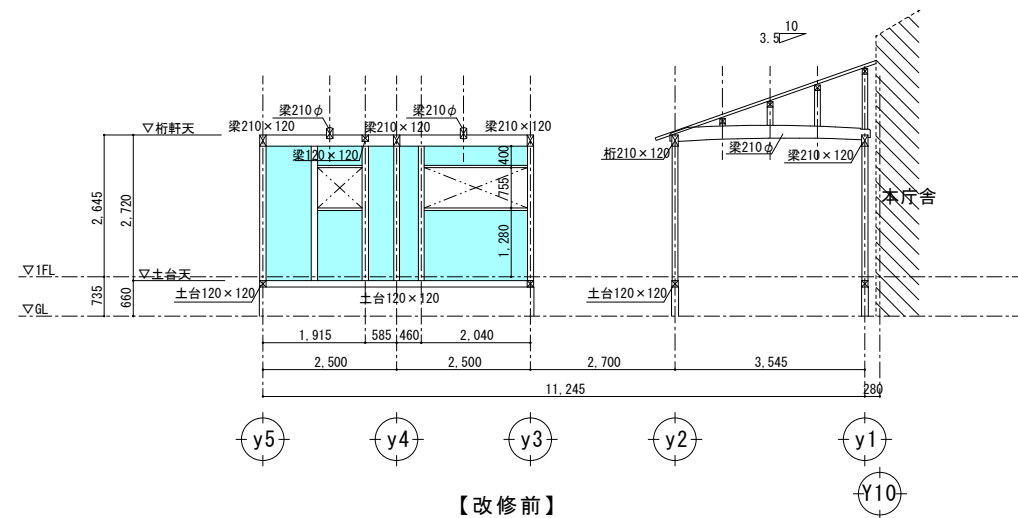


【改修前】  
x3 通り軸組図 S=1/100

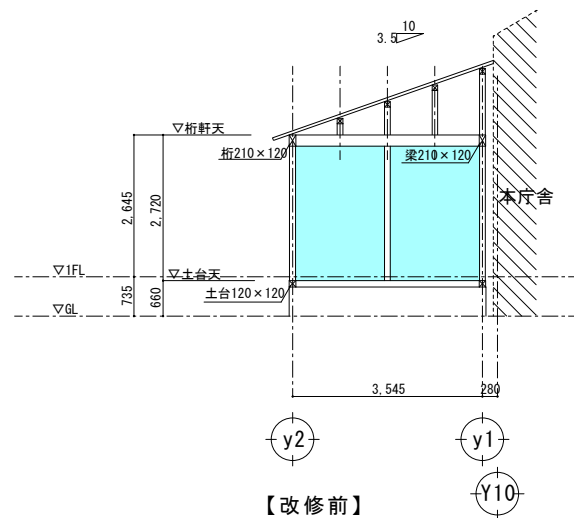


【改修前】  
x4 通り軸組図 S=1/100

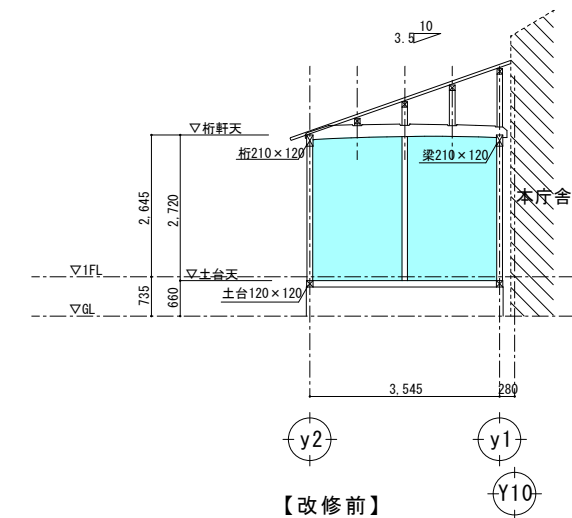
凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分)：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱 梁撤去部分



【改修前】  
x5 通り軸組図 S=1/100



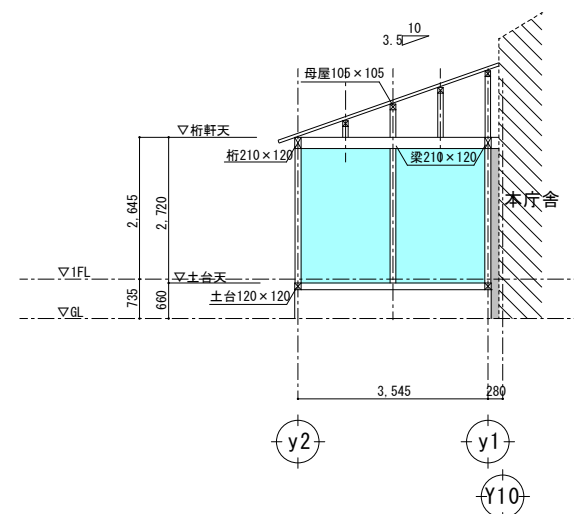
【改修前】  
x6 通り軸組図 S=1/100



【改修前】  
x7 通り軸組図 S=1/100

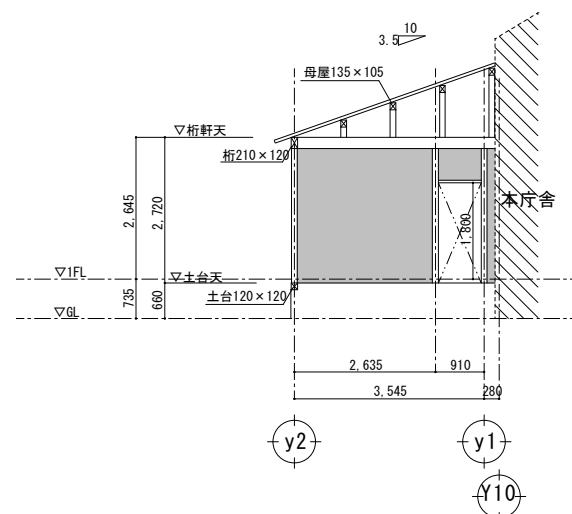
※特記なき限り、柱110×110

改修前



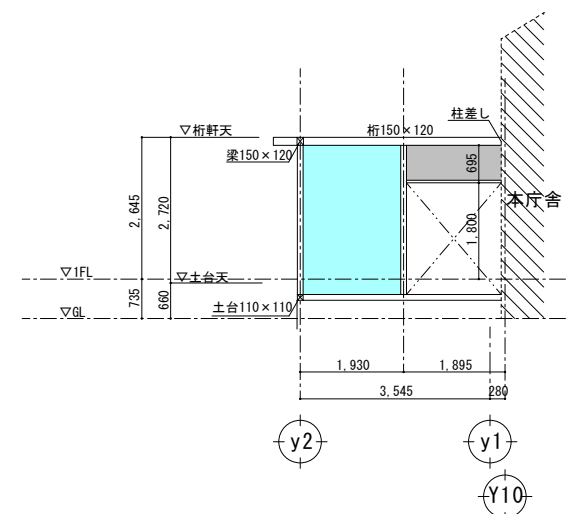
【改修前】

x8 通り軸組図 S=1/100



【改修前】

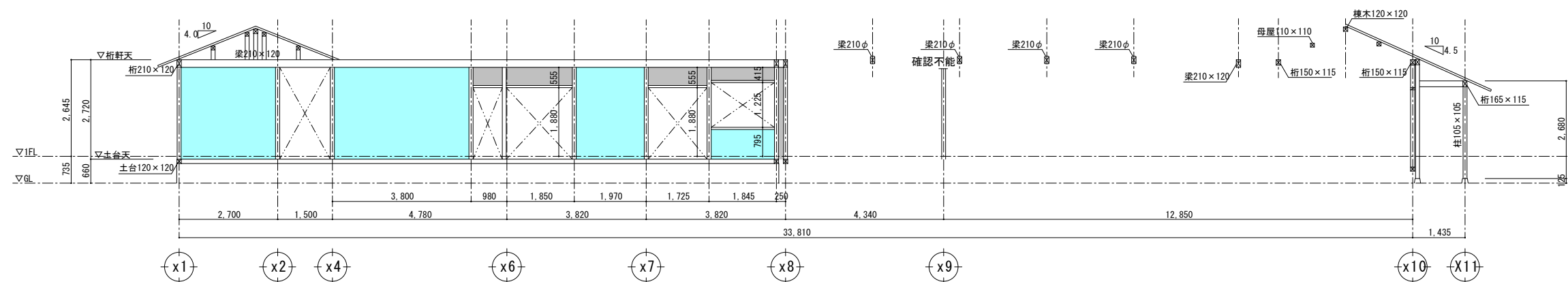
x9 通り軸組図 S=1/100



【改修前】

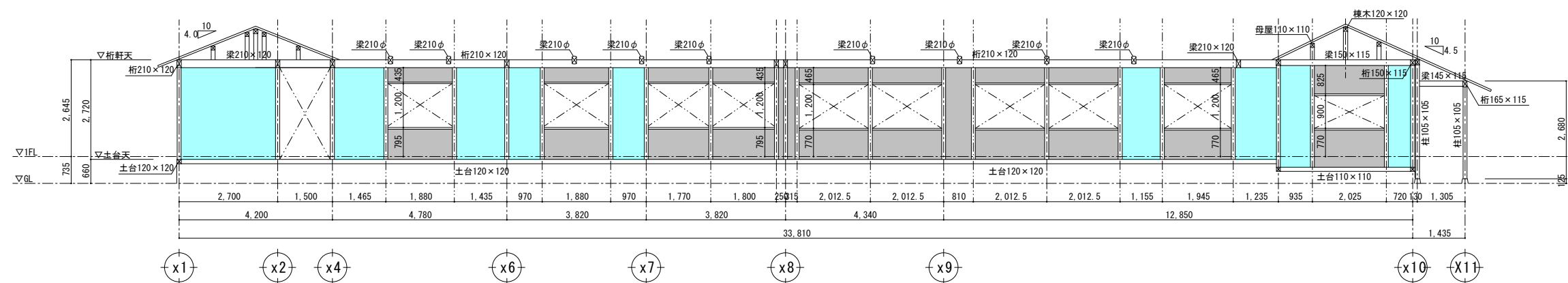
x10 通り軸組図 S=1/100

凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分)：1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱・梁撤去部分



【改修前】

y1 通り軸組図 S=1/100







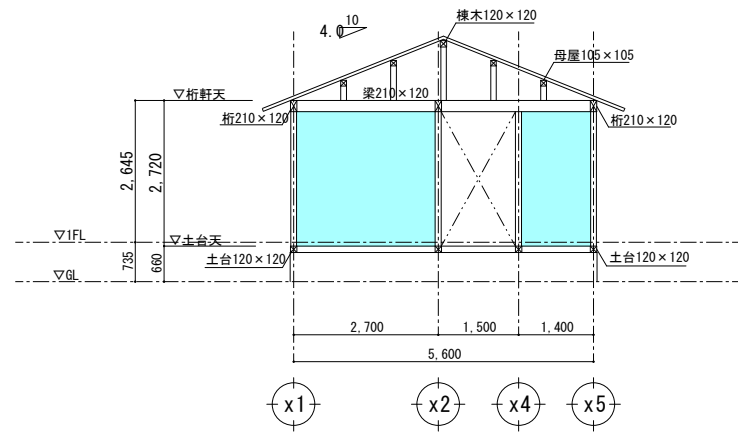
【改修前】

y2 通り軸組図 S=1/100

※特記なき限り、柱110x110

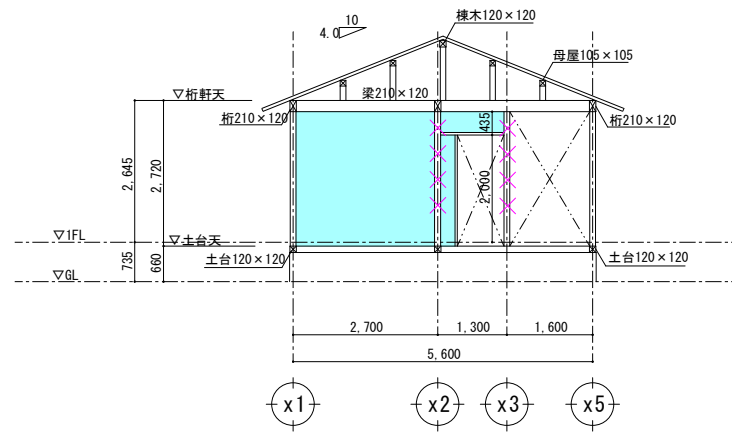
改修前

凡例 (解体部分)	
	既存壁：土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	壁撤去部分 (一部) 部分撤去 (壁部分) : 1/2撤去、1/2残置 撤去位置は現地にて指示
	全面撤去壁部分
	柱・梁撤去部分



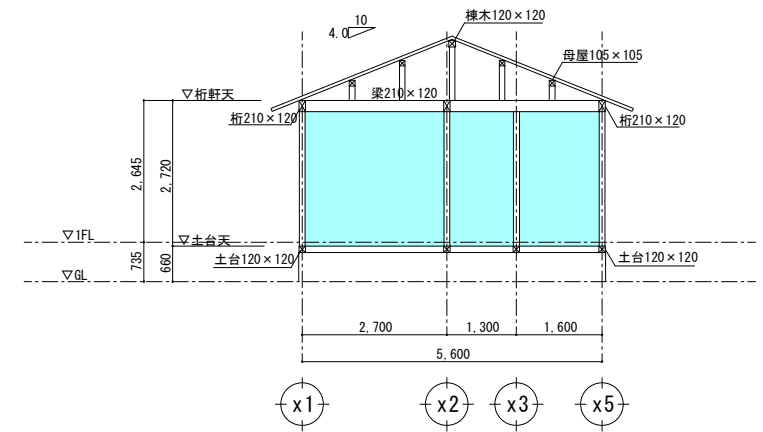
【改修前】

○y3 通り軸組図 S=1/100



【改修前】

○y4 通り軸組図 S=1/100

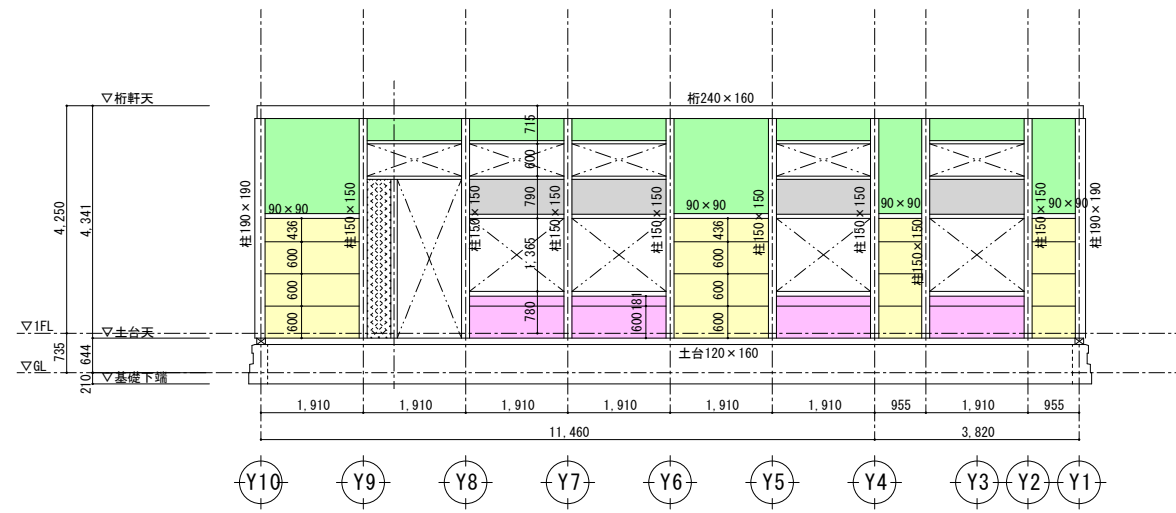


【改修前】

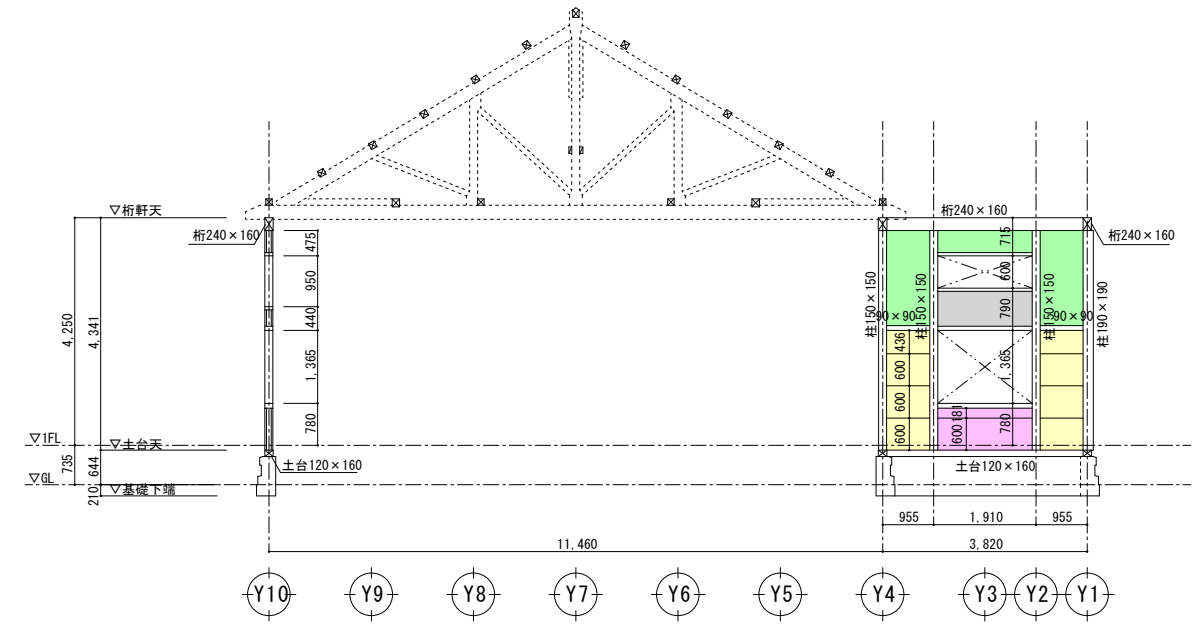
○y5 通り軸組図 S=1/100

※特記なき限り、柱110×110

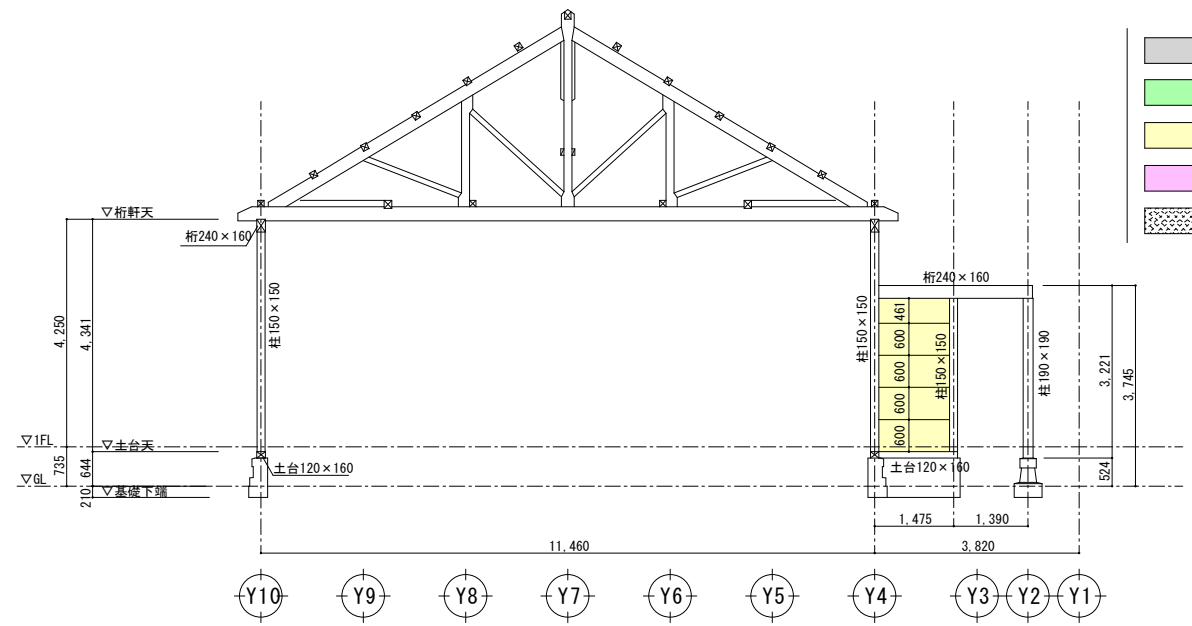
改修前



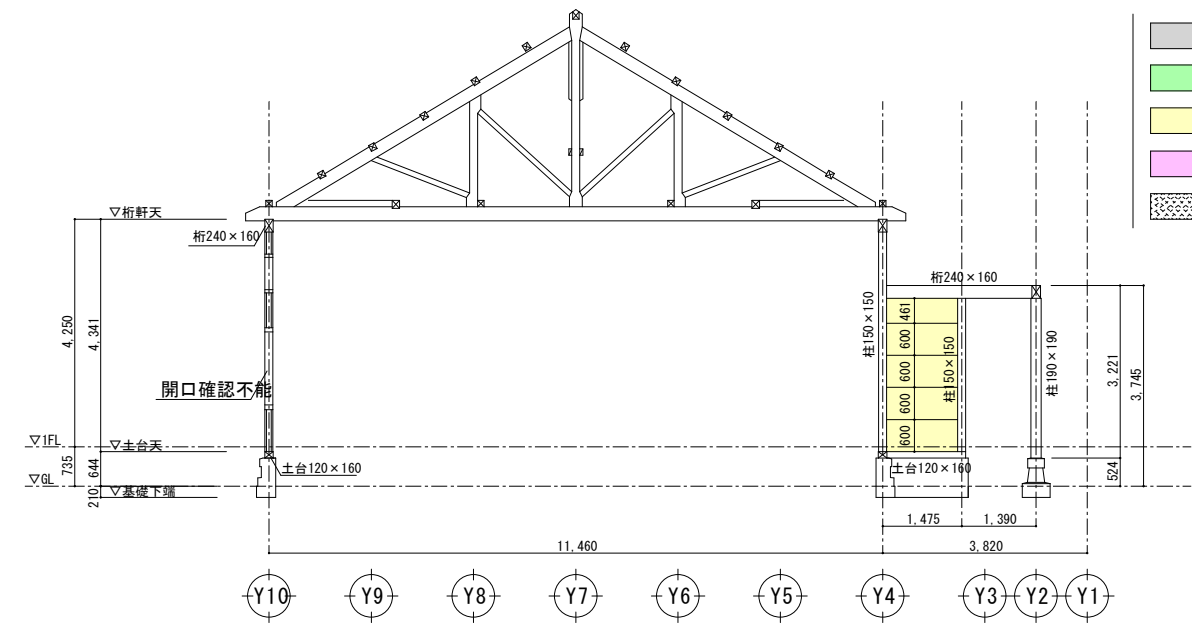
X1 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 18枚 × 2 = 36枚



X4 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 5枚 × 2 = 10枚



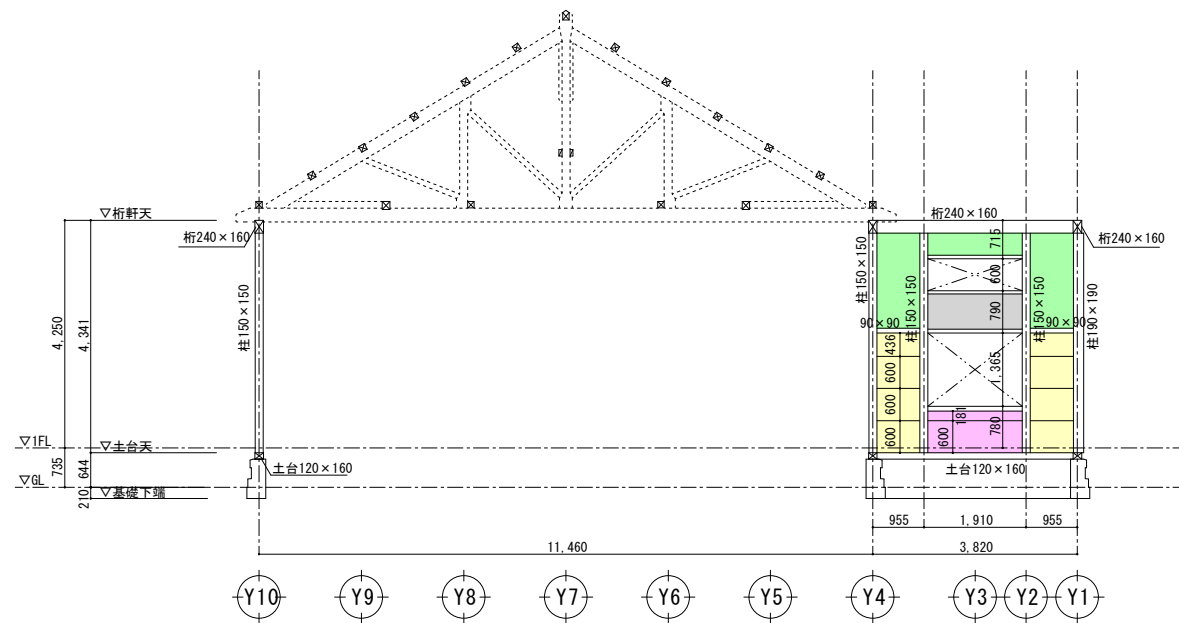
X5 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 5枚 × 2 = 10枚



X7 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 5枚 × 2 = 10枚

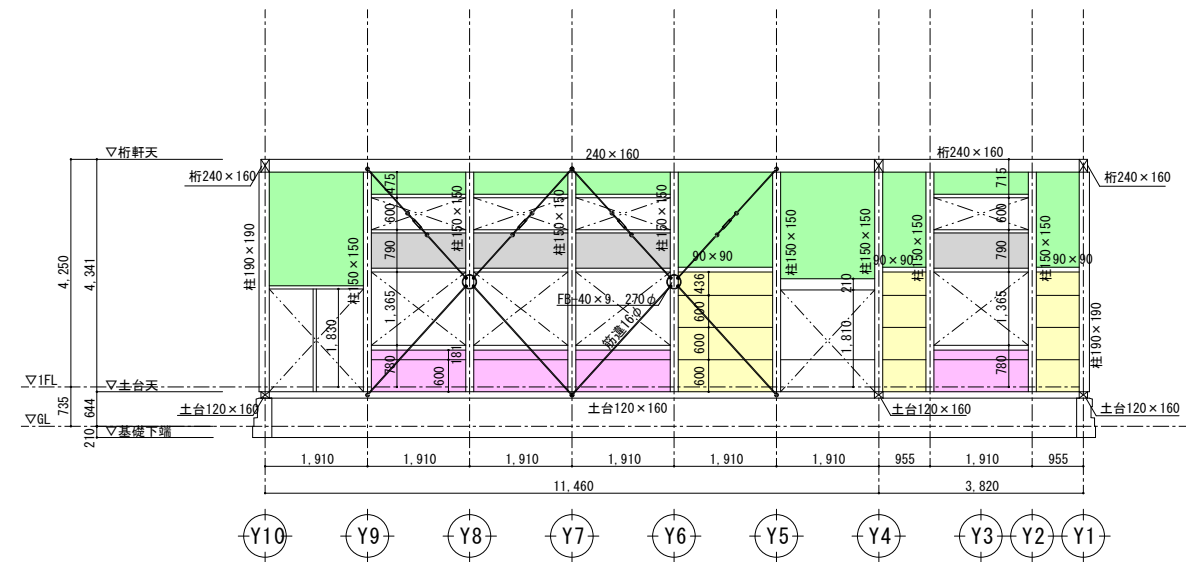
凡例	
既存壁	■ : 土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)
	■ : 既存土壁 (補修)
耐震補強壁	■ : 荒壁パネル全面 (両面張り)
	■ : 荒壁パネル腰壁 (両面張り)
一般壁	■

仕様
耐震壁の仕様
・荒壁パネル：標準仕様書参照 (S-11)
・既存土塗壁 (補修) 未確認部分あり 全体の1/2 既存下地使用補修 塗厚90mm確保 (仕上含まず)
・撤去新設 塗厚90mm (仕上含まず)
各軸組図共通
・荒壁パネルで補強する壁面に既存の筋かい、間柱がある場合は撤去する。
・同壁面の天端に既存の健全な横架材がある場合は活用して良いものとする (原則 90×90以上)



X9 通り軸組図 S=1/100

荒壁パネル  
5. 5枚 × 2 = 11枚



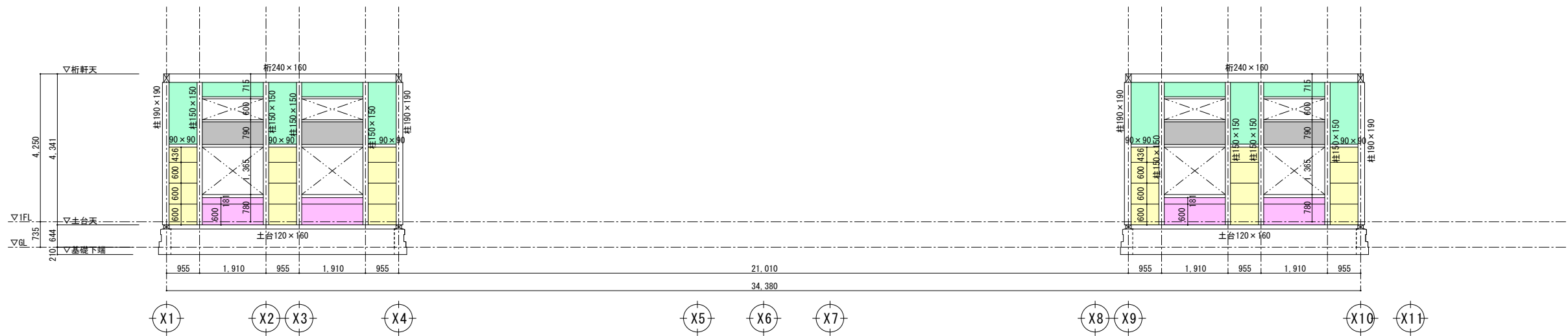
X10 通り軸組図 S=1/100

荒壁パネル  
14枚 × 2 = 28枚

凡例	
既存壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)</li> <li>既存土壁 (補修)</li> </ul>
耐震補強壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネル全面 (両面張り)</li> <li>荒壁パネル腰壁 (両面張り)</li> </ul>
一般壁	

1800(L) × 600(W) × 26(t) 39枚

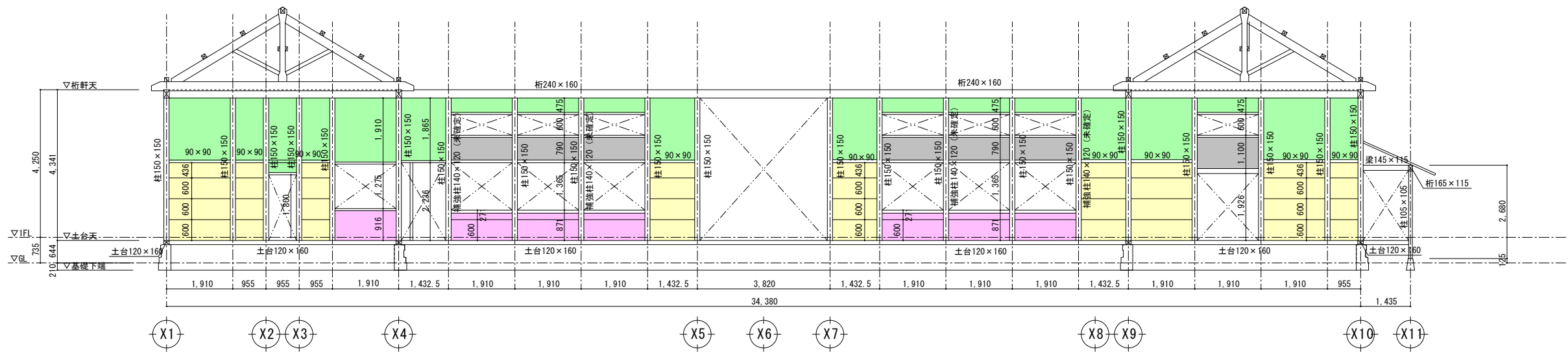
仕様
耐震壁の仕様
<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネル: 標準仕様書参照 (S-11)</li> <li>既存土塗壁 (補修) 未確認部分あり 全体の1/2 既存下地使用補修 塗厚90mm確保 (仕上含まず)</li> <li>撤去新設 塗厚90mm (仕上含まず)</li> </ul>
各軸組図共通
<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネルで補強する壁面に既存の筋かい、間柱がある場合は撤去する。</li> <li>同壁面の天端に既存の健全な横架材がある場合は活用して良いものとする (原則 90 × 90以上)</li> </ul>



荒壁パネル  
9枚×2=18枚

Y1 通り軸組図 S=1/100

荒壁パネル  
9枚×2=18枚



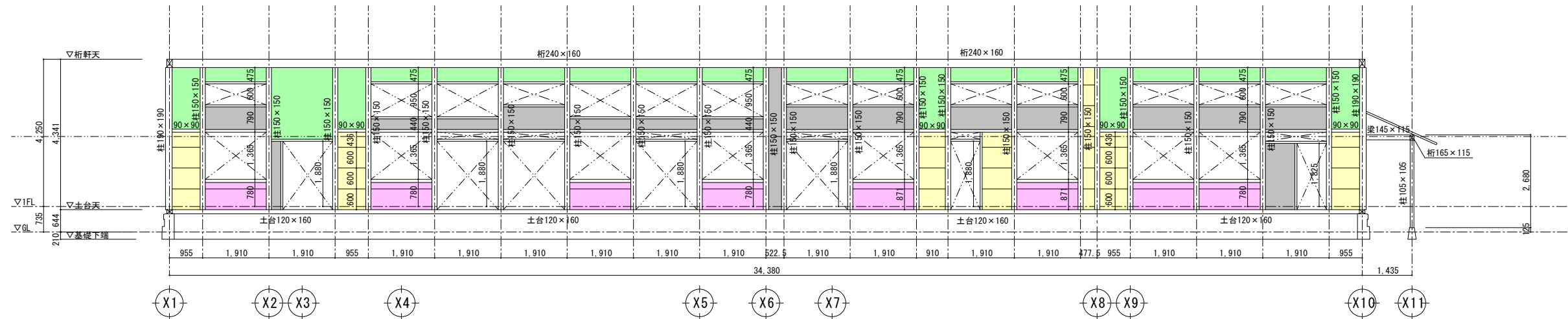
Y4 通り軸組図 S=1/100

荒壁パネル  
40.5枚×2=81枚

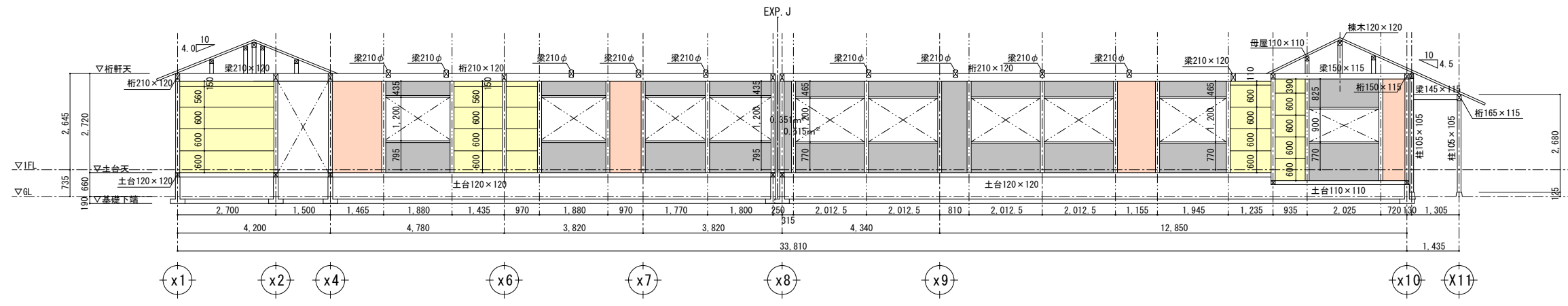
凡例	
既存壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)</li> <li>既存土壁 (補修)</li> </ul>
耐震補強壁	荒壁パネル全面 (両面張り)
	荒壁パネル腰壁 (両面張り)
一般壁	

1800(L)×600(W)×26(t) 117枚

仕様
耐震壁の仕様
<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネル：標準仕様書参照 (S-11)</li> <li>既存土塗壁 (補修) 未確認部分あり 全体の1/2 既存下地使用補修 塗厚90mm確保 (仕上含まず)</li> <li>全体の1/2 撤去新設 塗厚90mm (仕上含まず)</li> </ul>
各軸組図共通
<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネルで補強する壁面に既存の筋かい、間柱がある場合は撤去する。</li> <li>同壁面の天端に既存の健全な横架材がある場合は活用して良いものとする (原則 90×90以上)</li> </ul>



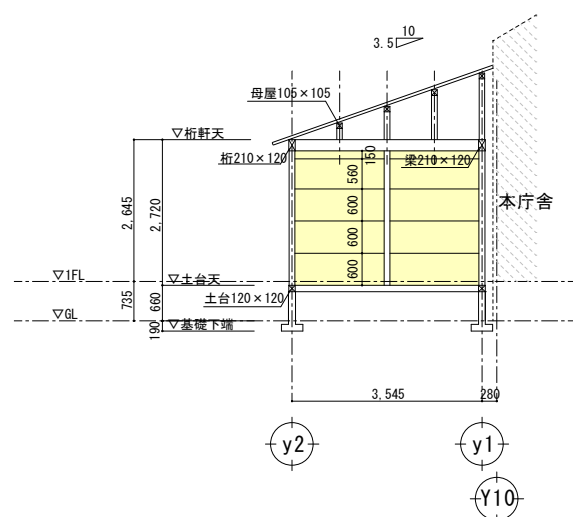
Y10 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 2 2 枚 × 2 = 4 4 枚



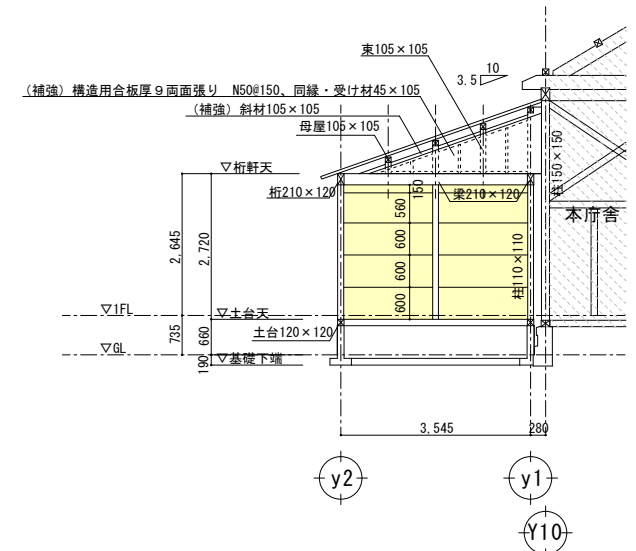
Y2 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 1 8 枚 × 2 = 3 6 枚

凡 例	
既存壁	■ : 土壁・小壁 (改修なし、既存のまま) ■ : 既存土壁 (補修)
耐震補強壁	■ : 荒壁パネル全面 (両面張り)
	■ : 荒壁パネル腰壁 (両面張り)
	■ : 荒壁パネル全面 (片面張り)
	■ : 石膏ボード t12.5
一般壁	■

仕 様	
耐震壁の仕様	・ 荒壁パネル：標準仕様書参照 (S-11) ・ 既存土塗壁 (補修) 未確認部分あり 全体の1/2 既存下地使用補修 塗厚90mm確保 (仕上含まず) 全体の1/2 撤去新設 塗厚90mm (仕上含まず)
各軸組図共通	・ 荒壁パネルで補強する壁面に既存の筋かい、間柱がある場合は撤去する。 ・ 同壁面の天端に既存の健全な横架材がある場合は活用して良いものとする (原則 90×90以上) ・ 石膏ボード：柱と間柱又は胴縁 (@455) に3.8φビス (長さ32mm) を150mm間隔で取り付ける。 ※ (注) 増築部3の石膏ボード類は全てこの仕様とする。

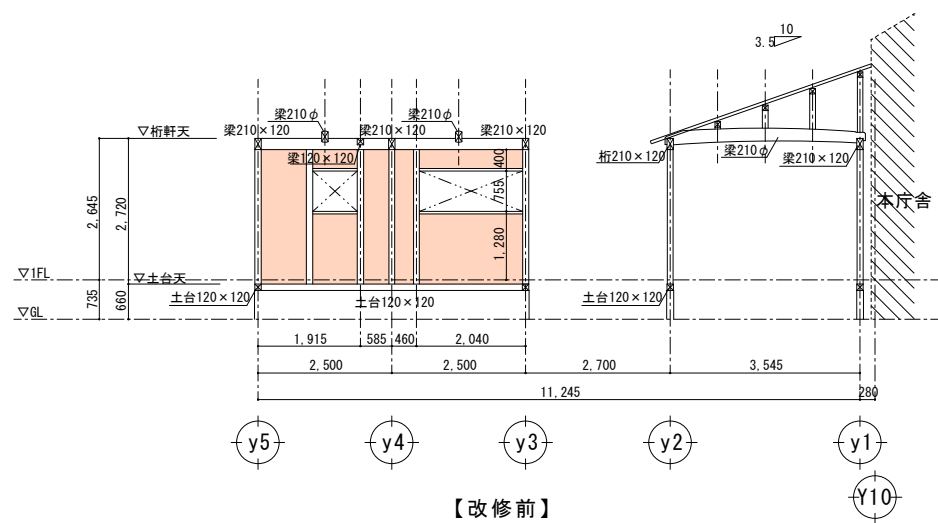


x6 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 8 枚 × 2 = 1 6 枚

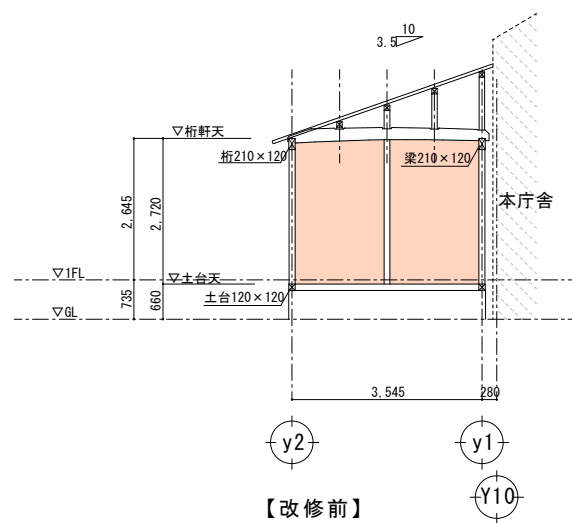


x8 通り軸組図 S=1/100  
 荒壁パネル  
 8 枚 × 2 = 1 6 枚

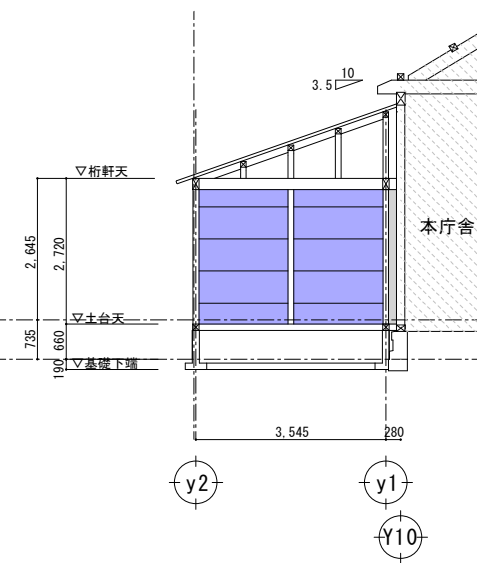




【改修前】  
x5 通り軸組図 S=1/100

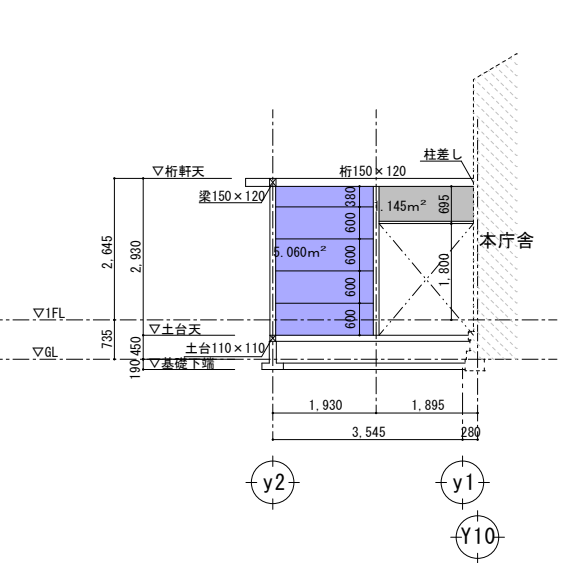


【改修前】  
x7 通り軸組図 S=1/100



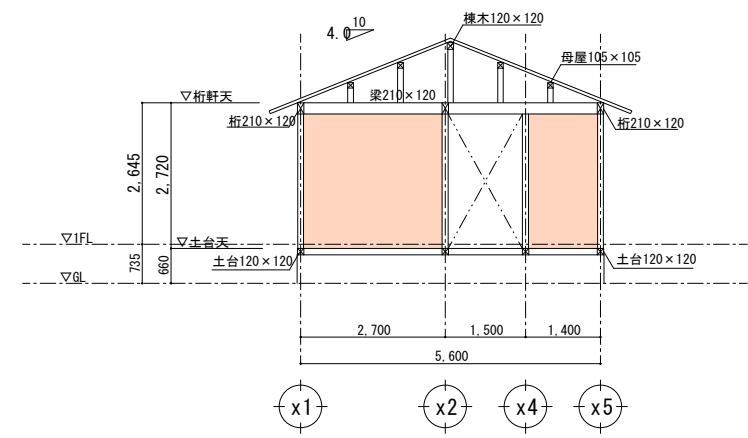
x8 通り軸組図 S=1/100

荒壁パネル  
8枚×1=8枚

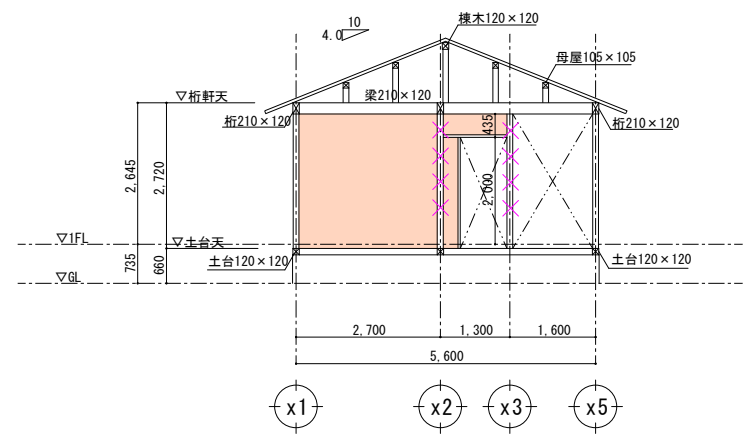


x10 通り軸組図 S=1/100

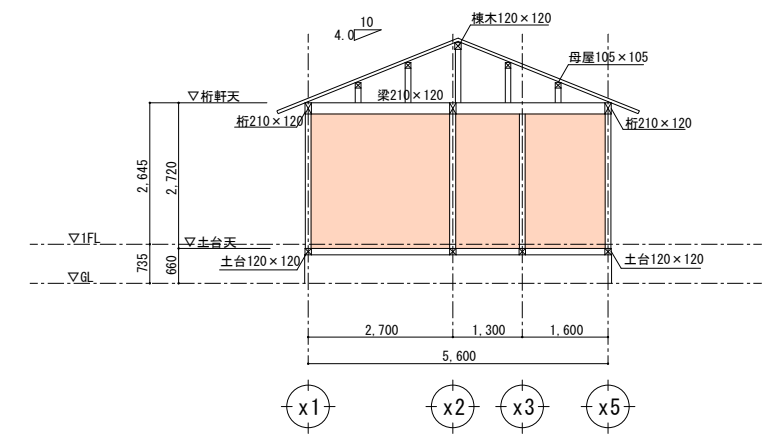
荒壁パネル  
5枚×1=5枚



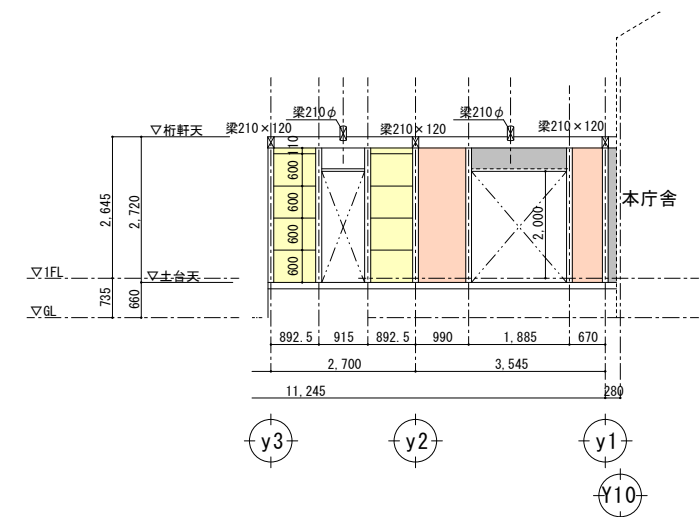
【改修前】  
y3 通り軸組図 S=1/100



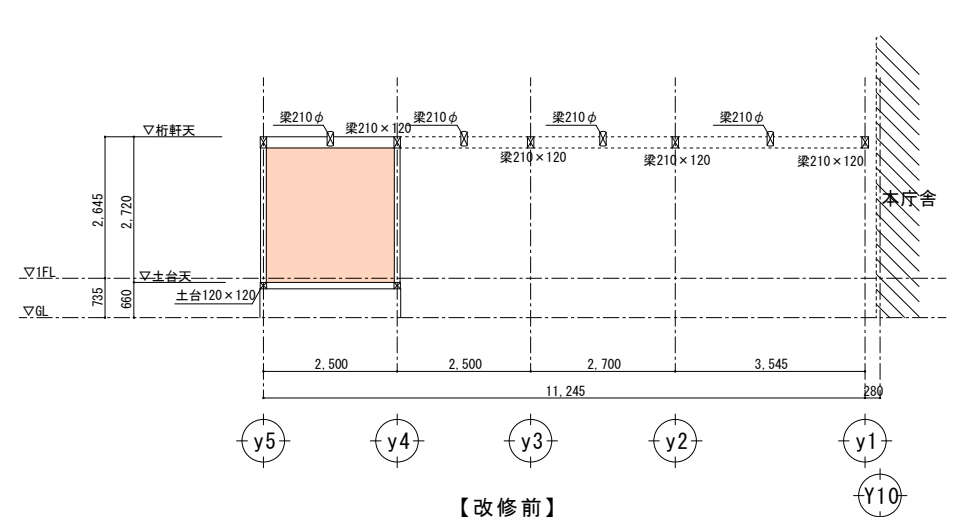
【改修前】  
y4 通り軸組図 S=1/100



【改修前】  
y5 通り軸組図 S=1/100 ※特記なき限り、柱105×105



荒壁パネル  
4. 5枚×2=9枚  
x2 通り軸組図 S=1/100



【改修前】  
x3 通り軸組図 S=1/100

凡例	
既存壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壁・小壁 (改修なし、既存のまま)</li> <li>既存土壁 (補修)</li> </ul>
耐震補強壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネル全面 (両面張り)</li> <li>荒壁パネル腰壁 (両面張り)</li> <li>荒壁パネル全面 (片面張り)</li> <li>石膏ボード t12.5</li> </ul>
一般壁	
仕様	<p>耐震壁の仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネル：標準仕様書参照 (S-11)</li> <li>既存土塗壁 (補修) 未確認部分あり 全体の1/2 既存下地使用補修 塗厚90mm確保 (仕上含まず) 全体の1/2 撤去新設 塗厚90mm (仕上含まず)</li> </ul> <p>各軸組図共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荒壁パネルで補強する壁面に既存の筋かい、間柱がある場合は撤去する。</li> <li>同壁面の天端に既存の健全な横架材がある場合は活用して良いものとする (原則 90×90以上)</li> <li>石膏ボード：柱と間柱又は胴縁 (@455) に3.8φビス (長さ32mm) を150mm間隔で取り付ける。</li> </ul> <p>※ (注) 増築部3の石膏ボード類は全てこの仕様とする。</p>